

あなたの意識です
第一卷

一、会員番号1610さんの意識

はい、***さん、あなたの心を語ってみてください。

あなたは、この学びしかないと思っておられるようですが、さて、どうでしょうか。

はい、この学びしかないと私は思ってたつもりです。

しかし、私の中に他力のエネルギーがしっかりと詰まっていることを、心に感じています。肉の私は、他力の反省が進んでいないことを、まだ感じておりません。

ああ、これがすべてでございました。母を思う時、田池留吉を思う時、他力のエネルギーが、その私の前に立ち塞がる壁としてあります。しっかりとあります。

ああ、肉はこの学びしかないと思っています。それは事実です。しかし、他力の壁はあまりにも部厚い。私の前に立ち塞がっているのを感じます。

はい、***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

私は、田池留吉など信じていない。信じるものか。

なぜ田池留吉なんだ。なぜあいつなんだ。私の目の前に立ち塞がったあいつを見るのがとても苦しい。散々私は、この心を使つてまいりました。

どうして田池留吉、なぜあの男なんだ。なぜなんだ、なぜなんだ。

そんな思いが心の中から出てきます。

これが私の他力のエネルギーなのでしょうか。私は、自分でまだよく分かつておりません。瞑想を続けてみます。田池留吉に心を向ける瞑想を、真剣にやっています。

母に向かつて、叫び出したい思いを、抑えてまいりました。

異語。

*****さん、どうぞ、ゼロ歳の時のあなたに心を戻していつてくください。頭ではないのです。母親の反省、母を思う瞑想、そう、あなたはそれを頭で理解されようとしています。

ああ、でも今、あなたのほうに意識を向ける時、あなたが語っていたように、他力のエネルギーがしっかりと中に詰まっているのを感じます。

どうぞ、しっかりとそのエネルギーを自分の中で確認して行ってください。

時間がかかります。焦らずともいいんです。ゆっくりと、あなたの今の日常生活の中で、どんなあなたでも受け入れていけるように、ゆっくりと、ゆっくりと、そのあなたに心を向けて行ってください。

二、会員番号1090さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、***です。長く、長く学ばせていただきました。田池留吉との出会いから、長い時間を経てきました。

心に真実を求めてきたけれども、私の求めているところは違っていたことを、ようやく最近気づきかけております。

私は、自分の中に大いなるパワーを求めてきた者でございます。すべてはパワー、パワーは私の源、私はそのように思っていました。

ああでも、田池留吉が言うパワーとは、全く違っていたことを感じてきました。心から田池留吉を呼ぶことができないと、今、感じています。

この学びは、真実の方向を私達に示してくれていると、私は思っていますが、しかし、私の中にも、まだまだ他力のエネルギーがしつかりと残っています。

そのエネルギーが、まだまだ田池留吉に、心の針をピツタリと合わせていくことが、難しいと言ってきます。私の今でございます。

田池留吉、お母さん…、温もりの世界へ帰ってまいりますと、私は、心に誓って生まれてきた、そのことを感じます。今、このように思いを向けさせていただく時、私の中に、そのような思いを感じます。

間違つてまいりました。間違つてきました。

異語。

***さん、お母さんの温もりを心に感じてきましたか。どうぞ、お母さんを思う瞑想、淡々と続けていってください。

お母さんです。お母さんの温もりです。それを忘れ去った心の中で、どんなにパワーを求め、

真実の方向に心を向けようとしても、心の針は、そちらのほうにはピッタリと合いません。
田池留吉、お母さん、お母さんの温もり。そう、ゼロ歳のあなたを思う瞑想、淡々と続けていってください。

三、会員番号1018さんの意識

はい***さん、自己供養ができないとのこと、あなたは、なぜだと思えますか。あなたの思いを聞かせてください。

***と言います。ああ、私は、自分の中をしつかりと見ていません。自分の中の醜い思い、汚い思い、隠しておきたい思い、私は、そこに、まだまだ自分で触れることを恐れています。心の中を見たいけば、ドロドロとした欲の思いが渦巻いているのを感じます。

ああ、私は、まだまだそのところに足を踏み入れる勇気が持てない、そんな私を感じます。なぜなんだろうか。

自己供養という言葉に惹かれました。でも、私自身、自分というものを知らない。本当に

どれだけの思いでこの肉体を持ってきたのかという、その思いを、まだ私自身、はっきりと感じていません。

ただ、自分の中は狂っている、狂ってきたに違いない、そう思うだけです。ただただそう思うだけです。まだ、自分から、その狂ってきた自分、間違ってきた自分を、しっかりと受け止めてやれるだけの思いを、私は、まだ自分の中に芽生えさせていません。

はい、私は、自分が恐ろしいのです。自分の中をどんどん見ていけば、私は、間違いなく狂ってしまうであろうと思います。

どれだけのエネルギーを蓄えてきたか、私は、そのことを本当は知っているのに、知らないふりをしている、そんな自分だと思っています。

異語。

*****さん、お母さんのほうに思いを向けてみてください。

異語。

私は、母を殺してきました。母を憎んできました。母を、母を殺して、殺して、殺してきました。そんな私になぜ、このように母に願ひ出て肉体をいただいたのか。その私の思いをまだ心で感じることはできない。

母を許せなかった。母を許せなかった。母に対する思い、恨みの思いが、私の中にしつかりとあります。母を認めたくない。母を受け入れられない。母の温もりを蹴散らしてまいりました。

異語。

***さん、あなたがあなたを受け入れていくことができないのは、母親の温もりをあなたの心に感じていないからです。

どうぞ、お母さんを思う瞑想をしていってください。どんな自分でも受け入れていけるだけの温かい広い思いが、あなた自身です。その思いがあなたの中にしつかりとあります。

お母さんの温もりを思い出していきましょう。

お母さんの温もりはあなた自身です。その温もりをあなたの中で、しつかりと感じていかない限り、あなたは、自分のエネルギーに飲み込まれていくことを、あなた自身は、知ってい

るんです。だから、あなたは、あなたを見ないように、見ないようにしています。

こんな思いを使ってきた、あんな思いを広げてきた、そこで留まってしまふのです。もう一步、もう一步、奥を覗いてみてください。

それには、そうですね。同じことの繰り返しかもしれませんが、お母さんに使ってきた思いを、正直にありのままに、自分の中で確認していくこと、良いとか悪いとか、そういうことではなく、あなたがお母さんに向けてきたエネルギーを、しっかりと確認していくことです。

四、会員番号1439さんの意識

****さん、今のあなたを語ってみてください。

私は、****と言います。今の私は、自分自身を嫌っています。自分自身が嫌いなんです。私は、私を認められない。こんな私は認められない、その思いが、とても強いです。

心の中に、自分の理想とする形がありました。その理想を追い求めてきた私があります。過去からの思いがそうです。私は、自分の中に理想を追いかけてきました。

異語。

何度転生をしても、私は、自分を受け入れることはできませんでした。

自分を嫌ってきました。自分が愛しいなんて思えることはなかった。どうすれば、自分を愛しいと思えるのか、私には、それが分かりません。

自分を大切にするといいっても、私は、たぶん自己中心的な思いで、その言葉をとらえていると思います。

自分を嫌っている…、私は、今、自分を語ってみて、そんなはずはない、私は、私をこれだけ認めているじゃないか、私にもいいところがある、私にだってこんな素晴らしいところがある、心の中から反発の思いが出てきます。

ああでも、私は、自分を自分で受け入れられない、自分を認められない、自分を自分が嫌ってきた、この思いを今語った時、少し、ああそうだったんだなあって感じます。私は、私を知らなかった。知らな過ぎました。

私の中のたくさんの私が、今、このように答えてきてくれていることを、心に感じます。

異語。

****さん、あなたが瞑想をする時の思いを見ていってください。

なぜあなたは、瞑想をしようと思うのですか。そのところを、正直にあなた自身、確認していってください。そこに、これからあなたが学んでいく上で、色々なヒントがあるとあります。一言で言うならば、欲なんです。あなたが、瞑想をしようとするその根底にあるものは、欲の思いです。その欲の思いをどんどん見ていってください。こうなりたい、あなりたい、その思いを、どんどん自分の中で見ていくんです。

瞑想することが、もう喜びのほうです。瞑想をする先に何もありません。

異語。

****さん、そして、淡々と瞑想を重ねていけば、あなたは、あなたを生んでくださった今世のお母さんを通して、あなたの中で、母という意識に対して、凄まじい思いを流してきてあなた自身に出会うでしょう。

母親の反省とは、今のあなたのお母さん、単にその人の反省をするということではありません

せん。その人の肉を通して、あなたの中の凄まじいエネルギーを確認していくこと、それが母親の反省です。

過去より、母の意識に対して、どれだけ凄まじいエネルギーを流し続けてきたか、今の母親さんを通して、どんどん自分の中で見ていってください。

五、会員番号1159さんの意識

***さん、あなたの頭の中の思いとは、どのような思いでしょうか。そして、本当の自分の思いとは、どのような思いでしょうか。

どうぞ、あなた自身で語ってみてください。

頭では、私はこの学びをやっている、そのように思っています。忙しい毎日を送っています。でも、私は、時間を見つけて瞑想をやっています。田池留吉に心を合わせることも、忙しい毎日の中で、やっつけいこうと思っています。私は、自分の頭では、そのように思っています。ああ、違っていました。私の中にあるのは、恐怖です。

このまま心に向けていけば、私の中はようになっていくんだろうか、そんな恐怖の思いが、心の中に渦巻いているのを感じます。

なぜ、恐怖するのか。ああ、私は、今の自分の生活を崩したくないんです。私は、今、色々なことがありますが、やはり、肉でとても幸せです。

心の中には、ざわめきも、色々な悩みも、次から次へと感じるけれども、私は、今の生活に満足しています。

この生活と引き換えに、たとえば、私の中が狂っていった時、そうすることが本当にできるのだろうか、それが、恐怖の思いをかきたてるような気がします。

本当の私の思いは、もっともっと、自分の中を、洗いざらい見ていきたい、凄まじいエネルギーを感じて、凄まじいエネルギーをもっと、もっと自由に解き放したい、そのように語ってきます。

ああでも、このエネルギーを受け止めていけるだけの私の中が整っていないことも、また感じるんです。

それが恐怖となって、私の中に渦巻いているのを感じます。

異語。

****さん、お母さんを思ってください。あなたも安らいでいた時があったはずですよ。何も考えずに、何も思わずに、ただただお母さんを思っていた時があったはずですよ。

忙しい毎日の中で、ふうつと心を向けることをしていると、あなたはおっしゃっていましたが、少し意識的に、瞑想をする時間を持つようになさってください。

少し長い時間、瞑想をするように心掛けてください。毎日の生活の中で、その時間をどこかで作って、そして、心をお母さんに向け、田池留吉を思う瞑想をなさってください。

異語。

私は、****の意識でございます。お母さん、ごめんなさい。お母さん、ごめんなさい。はい、もう少し、私は、私を見つめてまいります。私は、私を大切にしていきます。私は、私自身のために、あなたから肉体をいただきました。そのことを、もう少し、自分の中で、しっかりと広げていきたいと、今、思います。

六、会員番号1543さんの意識

****さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

自分の中に、本当のことを知りたい思いがありました。本当のことって、いったい何だろうか、私は、そのように自分の中で思っていました。

自分の中を見ること、心を見ること、自分を感じることを、そういったことを、私はこの肉を通して伝えていただきました。

それが、私の今世でございました。私は、今、自分の中に、真つ黒な、真つ黒な自分を感じ、もう吐き出してもいいんだよ、吐き出してもいいんだよ、みんな苦しかったね、そんな思いを感じています。

そして、その場を、私自身がこのように用意してきたんだなあと感じています。ああでも、私の中は…。

****さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、私は、どこかでこの思いを知っているなあと、今、感じています。お母さんを思います。心の中に母を思う時、私の中に、エネルギーを、大きな、大きなエネルギーを感じます。

そう、田池留吉に心に向けることを、私は、自分で望んできたんだなあと、今、思っています。ひとつの肉体を持つて、その肉体を通して、凄まじいエネルギーを、今、心に感じています。

田池留吉……。はい、間違った道を歩いてまいりました。田池留吉、私は、間違った道を歩いてまいりました。他力のエネルギーを心に蓄えてきた。ああ、幸せになりました。ああ、幸せになりました。ああ、幸せになりました。だから、他力の思いを心に蓄えてきた。他力の神々を求めてきたことを感じます。

間違つてきました。今、私は、そのように感じます。

異語。

***さん、どうぞ、心を見ることを淡々として、そして、瞑想を淡々と続けていって

ください。あなたが心に感じているように、今世、あなたが、自分で用意してきた時間と空間、どうぞ、大切にしていってください。

もちろん、一足飛びには進んでいかないと思います。しかし、今、田池留吉に向けた時に感じたあなた自身を、しっかりと心に受け止めて、田池留吉のほうに心を向けながら、真っ黒な自分を見ていってください。

七、会員番号1815さんの意識

***さん、どうぞ、あなたの思いを語ってください。

この学びに繋がったことを喜んでいきます。私は、自分を道徳という枠の中に押し込めて生きてきました。とても苦しい、小さな中に自分を押し込めて生きてきました。心を縛ることをしてきました。

この学びは反対でした。自分を解放していくことを伝えていただいています。自分を解放して、そして、自由な自分を心で感じ知っていくことを、伝えていただいています。

私は、自分の中を、もっともつと解き放していきたいです。道徳に縛られた心を解き放したい。今、私は、自分の肉を通して、このように語らせていただいていることが、すでに幸せだった、今、そのように感じます。

***さん、あなたのお母さんを思ってみてください。

異語。

はい、母を思う時、私の中には、ああ、母に対しての恨み辛みの思いが、しっかりと感じられます。それが私のエネルギーでした。

私は、恨み辛みをたくさん抱えて、そのエネルギーをたくさん抱えて、転生を続けてきました。何もかも恨んできました。何もかも憎んできました。そんな私が、今の母親を通して、そのエネルギーと向かい合っています。母を恨んできました。母を蹴散らしてきた。母のことを、どうしても、母を受け入れることができなくて、苦しんできました。

そうだったんですね。私は、私を見ていけばよかったですね。

私のこのエネルギーを肉の母を通して、感じていけばよかったですね。

今、少し心が軽くなりました。

異語。

***さん、どうぞ、あなたの中に思いを向け、瞑想を続けていってください。田池留吉、まだまだその方向に心を向けるということは、あなたにとっては、難しいかもしれませんが、何の欲もなく、ただ無心にお母さんのおっぱいを吸っていた時の思いを思い出しながら、日々、瞑想を重ねていってください。立派なあなたはいんです。立派なあなたを目指さなくてもいいんです。ありのままのあなたを見ていけば、やがてそこから、本当の喜び、本当の幸せ、本当の温もり、そんなあなたを知っていくでしょう。焦らず、たゆまず、自分に誠実に、これらの時を過ごしていってください。

八、会員番号1057さんの意識

***さん、あなたの学びの動機は何でしょうか。そのところからあなた自身を語って

みてください。

私は、自分の中が苦しいことを見るのが嫌なんです。自分の中の凄まじいエネルギーと真向かいになるのを拒否しています。そんな私に、自分のエネルギーを感じていきなさい、肉の母を通し、その形を通し、私に訴えかけてくれる意識があります。

そういうことを私は学んでいるのに、私は、やはり、自分の心をしっかりと見ることを拒否しています。では、なぜ、私は、この学びに集っているのか。この学びをしようとしているのか。なぜこの申し込みをしたのか。今、私は、自分の中で振り返ってみます。

ああ、そうです。私は自分の心を見ずに、何か教えを請うというか、何かこれからの私に役立つような、プラスになるような、私が楽になるような、そんなきっかけになればいいと、この申し込みをさせていただいた。

ということは、私は、やはり、他力でとらえています。過去からの私の他力信仰の思いを引きずり、今もまたこの学びをやっつけていこうとしているんですね。

自分の苦しい心を自分で見つめて、そして、それを自由に解放していきなさい、その方法はこうですよ、そういう学びでした。私は、やはり、動機が間違っております。

異語。

****さん、あなたのお母さんに思いを向けてみてください。お母さんの思いを感じてみましょう。

異語。

はい、肉の母親とは違う何かを感じます。肉の母親も、何も分からずに真つ暗な中にいるんですね。そう、母親も何も分からない。だから、ただ、自分の中の思いのままに、言ったりしたりしてきます。

私は、それをまともに受けていました。

異語。

****さん、お母さんに厳しく当たる自分自身が悲しいって、どういうことでしょうか。もつと自分の心を見ていってください。

自分の中の凄まじいエネルギーをお母さんにぶつけるのではなくて、自分の中で、確認していくのです。

瞑想をする中で、どんどん思いを吐き出していつてください。異語が飛び出てくると思います。凄まじいエネルギーを異語で吐き出し、そして、その思いを自分の中で見つめていつてください。

お母さんに厳しく当たって悲しい、そういうことで、自分を誤魔化さないでください。あなたの中には、自分のエネルギーの凄まじさを、もともともと、見つめて、出してくれ、そのように語っているのではないのでしょうか。お母さんは、単にそのお手伝いをしてくださっている、初めは頭でもいいです。そのように思いながら、どうぞ、瞑想を続けていつてください。

お母さんの介護、あなたの身体にも疲労がたまります。

身体がクタクタになつて、瞑想どころではない、そういう状態であるならば、一度、その状態を考え直してみてください。

お母さんの肉のお世話が第一でしょうか。それとも、そのお世話を通し、あなた自身のエネルギーを見つめていくという思いが先行していますか。

形で見れば、同じように介護の時間を割いていても、あなた自身の思いが変わってくれば、介護を通して、どんどんあなたの中に気付きがあると思います。

お母さんの肉のお世話は大切です。しかし、それは、あなたの中のエネルギーを見つめるということを第一にして、されるべきものではないでしょうか。

お母さんの肉は肉です。肉は愚かです。あなたの肉も愚かです。

その愚かな肉同士、そこに関わっていては、どこまでいつても苦しみだけです。あなたはこの学びに繋がったのです。まずあなたから、苦しい意識の世界を、しっかりと見つめる方向に今の状態を活かしていただく。

九、会員番号1365さんの意識

***さん、背中の鉄板という意味が、あなたの中で分かってきましたか。

はい、己の偉い私を感じています。やらねばならない、何々しなければならぬ、そびえ立つ私を感じてきました。鉄板を背負って、私は、ずっと生きてきたように思います。

どうして、私は、こんなに自分を苦しいところに追い込んでしまったのか、今、そのことを感じています。誰も何もあなたにこうしなさい、ああしなさいと言ったわけではありません

でした。私自身が勝手にそびえ立ち、私自身が勝手に、こうしなければならぬ、ああしなければならぬ、そのように自分を追い込んでいったのでした。

そのことを、私は、三月の瞑想会で、少し感じさせていただきました。

苦しいところに追い込んでいったのは私でした。部厚い鉄板を背負ったのは、私でした。本当に愚かな私を、今、感じています。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、申し訳ございません。心を解き放つことをやっています。私は、何もできておりませんでした。私はできています、私は分かっている、感じてきている、私は、こんなに一生懸命やっている、その思いだけで過ごしてまいりました。その思いがすべて、ブラックであることに、私は、気付きました。心を見ているつもりでした。心は何かを感じ、そし

て、私は、自分を語ることをしてきたつもりです。

ああでも、それはすべて、私を、苦しい私を押さえつけて、語ってきたに過ぎなかった。今、心が少し開く時、ああ、自分は小さな中に閉じこもってきたんだなあ、そう感じます。田池留吉、お母さんに心を向けてまいります。ありがとうございます。

一〇、会員番号1743さんの意識

***さん、あなたの中にも喜びがありましたね。どうぞ、その喜びをしつかりとあなたの中で育んでいってください。

では、あなたの今の思いを語ってみてください。

長い、長い時間がかかりました。ああでも、今世の時間なんて、私の転生からすれば、ほんのひとつきだったんですね。

そのひとつきのうちに、私は、自分の中をこのように見させていただけることができて、今、とても、嬉しいです。

間違つてまいりました。凄まじいエネルギーを蓄えてきた。

お母さんに対して申し訳ない。自分に対して申し訳ない。そんな思いでいっぱいになります。

異語。

***さん、どうぞ、自分の中で、母を思う瞑想、田池留吉を思う瞑想、淡々と続けていってください。それがあなたのこれからの転生に繋がってまいります。

他力のエネルギーを蓄えてきたあなたです。あなたもその例外ではございません。しっかりとその他力のエネルギーを、自分の中で見つめ、そして、ともに、温もりへ帰っていき、いつも、いつも、そのように、思いを向けていってください。

二五〇年後を楽しみに待っています。

****さん、あなたの心を語ってみてください。

すべてを整えて生まれてきたことを感じます。何も無駄なことはありませんでした。私にとつてすべてが必要でございました。

なぜ、こんなに苦しい中に生まれてきたのか、私は、恨みの思いを広げてきた。憎しみの思いを広げてきました。それは、すべて、私が用意してきたものでした。私が私を見つめるように用意してきたものでした。

私は、自分という存在がすごいということを感じています。

本当に自分自身、生まれ変わりたい、やり直したい、そのように思つて、生まれてきたんだなあ、今、そう思います。

私が私を見つめるとき、何とも言えない思いを感じます。こんなすごい私を何度も、何度も受け入れてくれてきた、それを思うとき、私の中には言葉はありません。

****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

***の意識でございます。お母さん、申し訳ございません。凄まじいエネルギーで、自分自身を叩きのめしてきたことを感じます。

ああでも、私は、私をこのように待たせてくれていました。

心を広げてまいります。かじかんだ心を広げていきます。ひねくれた心を広げていきます。もう素直になつて、あなたの中にすべてを委ねていきたい、今、そのように思っています。

一一、会員番号1158さんの意識

***さん、他力の反省は進んでいますか。

他力の心、他力のエネルギー、自分の中に蓄えてきた他力のエネルギーを、私は、まだはつきりと自分の中で見つめていません。

そんなにすごいエネルギーを蓄えてきたのかと、まだまだ他人事のようにとらえています。自分の幸せを願ってきました。パワーを求めてきた思いがとても強いです。幸せにしてください、幸せにしろ、そんな思いを広げました。

母親に対してもその心を使ってきました。

何もかもうまくいかなかったとき、私は、周りをみんな蹴散らしてきた。

私は、自分の幸せを望んできました。自分の幸せはどこにあるのだろうか。何をすれば、何を持って、自分は幸せだと感じるのか。そのような思いをずっと広げました。そのために、他力のエネルギーを自分の中に培ってきました。

他力の反省が進んでいません。母親に対して思いを見ていくと、他力の壁にぶつかります。母親はその壁を自分で崩していきなさい、そのように私にこの肉をくれた。少しそう感じるけれども、私の中の壁は、まだまだ部厚いのが感じています。

***さん、あなたは、他力の反省が進んでいないと語りました。そうですね、他力のほうにがちりと自分を向けています。そのエネルギーは、すごいです。

あなたの目を感じます。田池留吉に向けてあなたのエネルギーを出するときのあなたの目を、あなたはご存知ですか。

どうぞ、田池留吉の目を見ることを、今、やってみましょう。

異語。

はい、田池留吉の目を見ることができません。私は、自分の目を見開いて、田池留吉の目を見据えてやることができると思ってきました。ああでも、田池留吉の目の前に、私の思いは、小さく、小さくなっています。

脅えている私を感じます。こんなのは初めてです。田池留吉の目は、私のすべてを見透かしている。私は、田池留吉を見くびってきました。心に蓄えてきたエネルギーを、自分の中で真剣に見つめてまいります。

私は、自分に冷たくて厳しかった。目を見開いて見てやると、私は、自分に冷たくて厳しい波動を流し続けてきました。

そのことを、今、少しだけ、感じさせていただきました。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

己一番の世界を広げてきました。私はやってきました。己一番でございました。ああどうしても、この己という壁を崩すことができなかつた。できません。

他力の反省が進まないのは、そうです、私は、他力のエネルギーに一体化している自分を感じています。他力そのものでございます。

私も、自分の中に他力のエネルギーが、しっかりと詰まっていることを感じながらも、やはり、そう、他人事のようにとらえていました。

少しは、他力のエネルギーが薄れているだろう、少しは田池留吉に心を向けている、少しは母親の反省ができてきた、とんでもございません。

私は、本当に甘くとらえていました。この学びを甘くとらえていました。田池留吉を甘くとらえていました。この学びすべてを甘くとらえていた。

そんな自分を感じます。

今、私の歳になって、このように厳しく語るのは、肉の自分にとって、とても辛いところ

がございます。

でも、私は、私自身を語らねばなりません。なぜならば、私も、この学びに繋がったからです。この学びに繋がったからには、どうしても自分を変えていかなければならない、そのように、私は生まれてきたのだと思います。これからの転生があります。しっかりと自分を見つめていこうとしています。だから、私は、私を厳しく、厳しく、見つめていきたいと思い、この申し込みをさせていただきました。

他力の反省が進んでいないことを、私自身に伝えたかった。そう伝えたかったです。

***さん、どうでしょうか。あなたの思いを、少し語っていただきました。肉のあなたは、これをすんなりと受け入れていけるでしょうか。

私は、これだけの年月をかけて、この学びをやってきた、その思いが、あなたの中には、確かにあると思います。その思いが強いと思います。

ああでも、これからの時間の中で、自分を厳しく見つめていくために、あなたは、転生を重ねていくと思います。

どうぞ、あなたの今の思いを、何度も読み返してください。そこには、あなたの偽らざる思いが溢れていると思います。偽らざる思いとは、本当の自分に出会いたいという思いです。

どんなに他力のエネルギーに心を向けても、この学びに繋がった意識は、必ず、自分の間違いに心で気付く時を留意していますと、私は伝えました。

落ち込まず、めげずに、時間の許す限り、自分に誠実に応えていつてください。学びは厳しいです。学びは、真実だから厳しいのです。

一四、会員番号1261さんの意識

****さん、あなたの心を素直に語ってみてください。

この学びに繋がり、私は、自分の間違いに気付くというよりも、なぜ私を生んだのか、母に対して恨み辛みを感じてきました。

肉の私は、母への思いを素直に表に出すことはできませんでした。

ああでも、私の中は、母の意識に対して、大きな憎しみと恨みの思いを抱えて、今世も生まれてきたことを、伝えたかったです。

肉をまとう私に、私の思いを届かすには、並大抵のことではありませんでした。

母を見捨ててきた自分自身だから、他力へと心を向けました。他力へひたすらに自分の心を向けました。

自分のエネルギーをすべて、他力に注ぎ込んできました。

母を見捨てました。母をないがしろにしてきた。母などいらぬ、私は、そのような思いを抱えて、今世、肉を持ち、そして、この学びに繋がりました。

私の思いを素直に語りなさいと、伝えてくれます。

素直に語らせていただきます。私は母を、恨んできました。憎んできました。こんな私に肉をくれた母親に対して、私は、大きな、大きな間違いを犯してまいりました。

異語。

***さん、肉のあなたは、するべきことをしてこれたと思います。あなたは、あなたなりに反省をしてこれたと思います。

ああ、しかし、あなたの中の思いを、今、語っていただいたように、中はすごいのです。すごいエネルギーが渦巻いています。

肉のあなたができることは、淡々と母親に使った心を思い出し、そして、できるとかでき

ないとかは別として、田池留吉を思うことです。

肉の色々な事情、出来事があります。しかし、あなたの中の思いを、今、あなたも感じられたと思います。

どうぞ、もう、これからの肉の時間、何はなくても、反省と瞑想の時間に割いていってください。

異語。

田池留吉に対しての思いを語りなさい。

田池留吉、田池留吉、はい、私は、田池留吉を見下げ続けてきました。

心の中に喜びも幸せも感じられなかった。ああだから、私の転生は苦しかった。ああこの思いを、すべて田池留吉のせいにしてきました。私は、自分が間違ってきた。自分は本当のことを知らずに存在してきた。自分を蹴散らしてきました。

本当に愚かな私を感じます。

田池留吉に対して、申し訳ない思いを感じます。

くそつたれの思いをどれだけ広げてきたか。それでも、私は、今、このようにして、肉体をいただいています。

田池留吉に対する思いを見てまいります。

一五、会員番号1381さんの意識

*****さん、母親の反省が進んでいないようですね。手順を飛ばしては、この学びはできません。お母さんに対して、どんな思いを広げてきたか、あなた自身が瞑想をする中で、しっかりと確認していつてください。

あなたの思いを語ってみてください。

肉の喜びと幸せを求めてきた人生でした。ああでも、私の心の中で、何だか、それが違っているように感じます。今世の私は、それを感じます。

心が苦しくなりません。心が寂しくなりません。

お母さんの反省をしなさいと言われ続けてきました。ああでも、私は、母の反省ができな

いんです。母に思いを向けることが恐いんです。母に思いを向ければ、私の中は、たちまち崩れていってしまうようなエネルギーを感じるからです。

ああ、こうやって語っている時、母に対して、どれだけの凄まじいエネルギーを流し続けてきたか、今、私は、心に感じます。

ああ、このエネルギーを、周りに流し続けていたんですね。主人も子供もみんな、みんな、蹴散らしてきました。

私は、それを認めることができなかつた。なぜならば、私は、己が、とても偉いからです。偉いくせに、とても小心なんです。そんな矛盾を、今、心に感じています。

異語。

***さん、時間を見つけては、瞑想をすることを続けていってください。

心の中にブラックの塊があるでしょう。あなたは、それを早く吐き出したいと思っています。しかし、あなたが語ったように、あなたの中がまだ整っていないのです。

ブラックの思いを吐き出しても、それをどのように自分の中で受け入れていくか、そのところで、あなた自身、迷っているし、自信がないのです。

だから、あなたは今、宙ぶらりんです。

肉の喜びと幸せを求めることに、限界を感じています。だからといって、真実の方向に、心を向けていこうとするはつきりとした思いが、まだまだ希薄です。

いいえ、もっと言うならば、あなたは、肉の喜びと幸せを求めることに、限界を感じているけれども、やはり、あなたがつかんでいるのは、肉の喜びと幸せ、肉の自分を基盤にした諸々です。

あなたは、その基盤から、自分を解き放つことを拒んでいると言うほうが、今の時点では正確でしょう。

その方向を変えていくのは、あなたです。

あなたが、お母さんに向けてきた思いを振り返ってみるとか、そして、生活の中で、最初は、時間は短くてもいい、ふうっと自分を思ってみる、そんな時間を作っていくとか、そういう肉の努力を、まずなさってください。

中は、待っています。もしかすると、見切り発車して出てくるかもしれません。そうならないうちに、肉のあなたが、まず、母を思う瞑想を習慣にしてください。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

自分の中がこれほど狂っていたとは、私は驚いています。自分の中が、これほど荒れ狂っていたとは、自分自身驚いています。

周りの現象から、私は、自分の心を見てきたつもりでした。しかし、自分の中の意識達、その意識達の苦しさ、今にも狂い出し、喚き散らし、本当に真つ暗な中にいる意識達、すべて私でございました。

そんな私を、今、ようやく心に感じ始めています。

心が敏感だと思ってきました。少しは私も、田池留吉、アルバートに、心に向けているのかなあ、お母さんの温もりを心に感じているのかなあ、そう思ってきました。

心に伝わってくる意識も、私は感じてきました。でも、そんなの、本当に上滑りの意識の世界であり、私の反省であり、そういうことを、今、ようやく、年月を重ね、心に響いてきます。お母さん、お母さん、お母さんは、私を受け入れてくれた……。その思いが心に響いてくる時、ああ、私もお母さんに肉体をくださいとお願いをした……。そんな思いが、切々と響いてきます。

お母さん、申し訳ございません。そして、私自身、もっと、もっと、自分を大切にしていこうと、今、感じています。

異語。

***さん、心を語る時のあなたの波動、私は、今、感じさせていただきました。学びを浅く、浅くとらえていたあなた自身を、あなたは、反省されてきました。

今、あなたの心に伝わってくるあなたの思いを、しっかりと瞑想をする中で感じていってください。

田池留吉、そしてアルバート、二五〇年後、次元移行、中の意識達は、その方向に思いを向けていけることを、心待ちしています。

あなたが、心が敏感だというその基盤は、肉でございます。そんなちっぽけな世界ではございません。あなた自身、そんなちっぽけな世界に存在しているのではございません。

どうぞ、心を見ていってください。瞑想を重ね、自分の意識の世界を、どんどん感じていってください。

あなたにも、もちろん、転生があり、その転生を経て、二五〇年後に心を繋いでいく大切

な今の時間です。自分の心をしっかりと見つめ、その基盤を変えていくこと、今世の肉の時間の許す限り、そのことに専念していただく。

一七、会員番号1330さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

お母さん：、お母さんを求めてきました。憎み恨みながらも、母を求めてきたこの心に、素直になっていこうとしています。

ああでも、それを遮るたくさんの私：。本当に間違ってきました。自分に冷たいことを感じます。パワーを求める心は、とても冷たかった。

パワーを求めて、私は、幸せになれなかった。だけど、パワーを求めてきた。なぜなんだろうか。お母さん、あなたの中へ戻っていこうとしている私を感じる一方、凄まじいエネルギーを、また一方で感じます。

お前は、パワーを求めてきたのではないのか。お前が求めるパワー、素晴らしいと、お前は、

このパワーのもとにひれ伏してきた。そのことを忘れるな。心の中の温もりだと、そんな、たわ言に耳を傾けるな、心を向けるな。

そうやって、私に言ってくる意識達、みんな私なんですね。私は、その私を、まだまだ受け入れていけるだけの優しさを、自分の中で確認していません。

異語。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、お前に心を向けるなど言ってきた我らの声が、お前には届かないのか。温もりなどお前には要らないはずだった。なぜそんなに温もりを欲しがるのか。パワーをやる。パワーをくれてやる。パワーを身につければ、お前の心を素晴らしい世界へと導いていくぞ。田池留吉に心を向けることをするな。

このように答えてくる私の中の意識達がございます。

ああしかし、田池留吉は、待つてくれている。お母さんの優しさを感じます。何も言いません。何も言わないけれど、両手を広げてくれているお母さんを感じます。あそこへ、私は、戻って
いこうとしているんですね。

自分の中を、しっかりと見てまいります。

異語。

一八、会員番号1208さんの意識

***さん、この学びは、二足の草鞋を履いてはできないんです。

あなたの基盤は肉にありますね。そのところを、もう少し、しっかりと見つめていってくだ
さい。あなたの思いを聞いてみましょう。

この肉の喜びと幸せを追い求めてきた意識に、そうではないことを伝えていくのは、とて
も難しいと感じています。

すべては、肉一色でございました。私の転生はみんな肉一色でございました。それが、今、この肉を持たせていただき、自分達の本当の姿は形がないということ、教えていただきました。頭の中を通過しています。そういうこともあるのかなあ、ああだけど、私は、今、まだまだ自分と自分の家族、周りの人達みんなを、形あるものとしてとらえています。その中で、いかに、生活をしていこうか、この学びを取り入れながら…、そういう思いを、心に抱えたままでございます。

異語。

***さん、心の学びは、他力信仰ではないのです。他力信仰とは、全く異なるものです。どうぞ、そのところを、もう少し、あなたの心で知っていくようになさってください。

自分の生活がうまくいくように、滞りなく生活できるように、そして、この学びで伝えていただいた幸せとやらも、喜びとやらも、自分の心で感じていこう、そういうことは、不可能でございます。

現実、私達は、今、形を持って、この形の世界に存在しています。しかし、意識の世界、自分の意識は、どちらを向いているのか、それをはつきりと自分の中で確認していくために、あ

あなたの今世があつたのでないでしょうか。

これから、あなたの転生は続いていくと思いますが、ただその一点だけの確認、今からしていつてください。

一九、会員番号1578さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

己の偉い私は、自分のそびえ立ちを見てきたつもりでした。ああ、見てきたつもりでした。しかし、まだまだそびえ立つ自分を完全に見ることはできていません。それほどのエネルギーを蓄えてきた私でした。

我一番の世界を広げてきました。自分ほど偉いものはない、そんな世界を私の中に作り上げてきた自分自身でした。

周りがそのことを見させてくれている。特に、私の夫にその思いを感じます。夫の姿は私の姿、ああそんなことはない。私と夫は違う。とても受け入れられないし、認められない思い

でいっぱいです。

優しい思いを、夫に向けていこうとしてきました。肉でも努力をしてきました。しかし、それには限界があります。私の中がやはり、変わっていかない限り、夫に対して、優しさが心から湧いて出てこないことを感じます。夫だけではありません。私の中の私、たくさんの私に対しても、お母さんが私を受け入れてくれたような思いで、包んでやることはできないことを、今、感じています。

異語。

***さん、どうぞ、優しいあなたを信じて、信じて、信じていってください。瞑想をしていけば、凄まじいエネルギーの自分を感じていくでしょう。それでも、今、あなたがそこにあるという現実、これこそ、あなたが優しさゆえだからです。あなたが温もりに他ならないからです。あなたが、今そこにある現実、これこそ、唯一のあなたの思いではないでしょうか。それ以外は、真っ黒です。真っ暗です。

お母さんが受け入れてくれたから、あなたが、今そこに肉体を持っています。その現実を、しっかりと思いやりながら、瞑想を続けていってください。

二〇、会員番号1784さんの意識

***さん、田池留吉に対して、どのような思いを向けてこられましたか。

心が苦しくてなりません。心が苦しい、田池留吉を思う時、私の心は苦しい、そんな私を感じました。

田池留吉を素直に見ているつもりでしたが、私は田池留吉を恐れています。

自分の心の苦しさが、自分の心の凄まじさが、はつきりと浮かび上がってくる田池留吉を思う瞑想です。

そんな私に、お母さんが伝えてくれます。

愚かなあなたを知ってください。愚かなあなたを知っていくんですよ。心の中の貧しさは、あなた自身が作り上げた世界です。私は、そんなあなたに、心で気付いてほしいとあなたをこの世に出しました。どうぞ、母の思いを受けてください。

そんな思いが伝わってきます。

田池留吉、田池留吉、心から素直に田池留吉を呼ぶ私を、今、心に感じます。その前に真

っ黒な、真っ黒なエネルギーを感じます。ああこれが、私の心、これが私の意識の世界。この真っ黒な塊を、自分の中で溶かしていかなければ、田池留吉の世界に通じ合うことはない。今、そのように、伝わってきます。

異語。

***さん、自分の心を感じられましたか。あなたの心で自分を感じていますか。

真っ黒な、真っ黒な塊の中に、あなたの真実は、かき消されています。

それがあなたの現実です。瞑想をすれば、感じると思います。

今世の時間を大切にしていってください。

真剣に自分と向き合っていてください。

ただ、私は、そのことをお伝えします。

あなたが、あなた自身を感じてくれば、この短いメッセージがあなたの中で、大きく広がっていくと思います。

異語。

二一、会員番号1721さんの意識

***さん、アマテラスと一体化となっているあなたを感じてみてください。

田池留吉、私は、アマテラスの世界に生きてきました。アマテラスを神として崇め奉ってまいりました。この心、今世修正するために、私は、今の肉体をいただいています。心の中にアマテラスを高く、高く、掲げてきた私でございました。この学びに繋がりを、そのことを、しっかりと自分の中で確認していく計画でございました。

しかし、私の計画は、途中で曲がってしまいました。己を表してきたのです。心に感じることを、前面に出してきました。私もチャネラーです。チャネラーとしての私を表してきた時がございました。

今は、そのところを、自分なりに見て反省に繋がっていると思っています。

ああしかし、アマテラスと一体化している自分の心に、本当の自分の思いを届かすには、まだまだ至っていないことが現実にあります。

これが私の現実でございます。今、語らせていただきましたこと、ありがとうございます。

嬉しいですよ。お母さん、私は、間違ってます。間違ってきました。あなたに肉體をいただき、私は、間違ってきた自分を知りたかったのです。

今、この時期に、私は、このように語らせていただけることが、何よりの喜びだと感じています。これから、ただただ、私は、自分を見つめ、人と競争することなく、そして、落ち込むことなく、また、己を持ち上げることなく、淡々とやっつけていこう、今、そのように思っています。

異語。

***さん、よかったですね。あなたの心を、今語られたように、あなたの学びを進めていってください。いずれ、私達と出会う時がやってくるでしょう。それまで、淡々と自分の道を進んでいってください。

その過程において、アマテラスもありました。その他諸々の他力の神も、あなたの心に語ってくるでしょう。

しっかりと心を見つめて、二五〇年後の出会いを、大きな喜びとしたいこうではありませんか。

二二、会員番号1730さんの意識

****さん、あなたが瞑想をする動機を語ってみてください。

はい、立派な自分、己の立派さを自分の中で確認したかった。以前はそうでした。その思いがとても強かったです。今は、その思いを、自分なりに見つめてきて、その思いは、少し薄れてきているような気がします。

しかし、依然として、やはり、私は、己の立派さを認めてもらいたかった。認めてほしい思いがとても強いです。

こんなに私はやっています、こんなに私はやってきました、その思いを認めてほしかったのです。

****さん、お母さんのほうに思いを向けてみてください。

異語。

お母さん、お母さん、お母さん、ただただ私を受け入れてくれた。ただただ私を受け入れてくれた、その思いの深さに、私は、己の愚かさを感じ、何とも言えない思いでいっぱいです。お母さん、お母さんを思う時、何もな私を感じます。何もなかったんですね。いつも、いつも、この私に戻り、そして、毎日の時間を送っていきます。

私なりにやってきたつもりでした。しかし、お母さんの思いの深さを、今、心に感じ、私は、自分の中のエネルギーと真向かいになっではないことを感じます。

どれだけの思いで、お母さんに願い出てきたのか、今、お母さんの思いを感じ、それが、心に伝わってきます。

異語。

田池留吉の言う方向に心を向けることをしてこなかった。今、はっきりと感じます。学びをやってきたつもりになっていました。つもりはつもりでした。私もそうでした。他力の中にいながら、田池留吉の方向に心を向けようとしても、できない相談でした。

今、自分の中に響いてくる思いは、そのような思いです。

間違ってきたことを感じています。確認できてよかったです。ありがとうございました。

二三、会員番号1774さんの意識

***さん、お母さんの温もりを心に感じていますか。

お母さんの温もりですか、まだはっきりと感じているとは言い難いです。お母さんを思えば、嬉しいという時もあります。ああでも、私の中には、母を思う瞑想をして、自分の中の闇が出てくることを恐怖する思いが、まだまだたくさんあります。母の温もりで包んでいくことは、頭では分かっています。しかし、私は、その自分の凄まじいエネルギーに飲み込まれていきそうで、しっかりと自分と向き合うことができません。

母の温もりを心に感じていないからだと思います。

そうなんです、私は、お母さんの温もりを、心にしっかりと感じていません。

狂ってきた自分を思い、自分の中のエネルギー、どうしようもないほど荒れ狂っている自分を、私は、しっかりと抱きしめてやれない、そんな私です。

異語。

***さん、どうぞ、田池留吉を思い、母を思う瞑想、どんなにあなたの中が遮ったとしても、それを、継続していつてください。

それしかないので。自分自身をしっかりと見つめていけるのは、あなただけです。今、肉を持っているあなたが、あなたを見つめるということをしなければ、真っ暗な意識の底に沈んでいるあなたを、救い出すことはできません。

日常の中で、まずは喜んでいきましょう。どんな些細なことも、喜べるあなたであってください。

幸い、あなたは、ご夫婦でこの学びをされています。互いに互いのエネルギーを感じ、苦しい時も多々あると思いますが、それでも、今、この学びに繋がり、田池留吉、そしてお母さんを思う瞑想を、それぞれがやっていると、喜んでいつてください。

ご夫婦で、異語を通して、思いを交わしておられますか。

どうぞ、互いに異語を通して、心をさらけ出していつてください。

異語は、正直です。異語を通して、真っ黒な思いを吐き出すけれども、その中に秘めた優しさ、

その中に秘めた思い、どうぞ、あなたの心で感じていってください。

二四、会員番号1746さんの意識

****さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

心を見る難しさを感じています。田池留吉先生の学びを、私はしてきました。心を見ることを、一生懸命にしてきました。しかし、私の基盤を変えていくことは難しいです。他力の思いをしつかりと心に抱えたままです。

私は、自分のその現実をまだしつかりと把握しておりません。

心が荒れ狂っているとか、心の中の凄まじいエネルギーとかということ、目にしたり、耳にしたりすることはあっても、私自身まだ、自分の中でピンときていない状態でございます。

****さん、あなたが心を向けてきた他力の神々に、今、思いを向けてみてください。

異語。

他力の神々、私を幸せにしてください、私を幸せに導いてください。この心もすべて、すべてあなたに差し上げます。私の思いを、どうぞ、叶えてください。どうぞ、どうぞ、叶えてください。私は、喜びと幸せを求めてきました。転生を重ねて、私は、その中にどっぷりと浸かっています。他力の神々にすべてを捧げてきた私自身でございます。心の苦しさも、まだまだしっかりと感じていません。なぜならば、他力の神々が素晴らしく、私の中で思っているからです。どれだけ自分を裏切ってきたかなんて、私は、自分の中ではっきりと確認しておりません。自分の冷たいことも、はっきりと分かりません。

しかし、今、このように語らせていただいて、自分の中の奥底に、真つ黒な、真つ黒なエネルギーの塊を感じます。

ああ、この真つ黒な塊を、自分の中で確認していきなさい、そのような学びでございました。私は、学びをしてきたと語りましたが、それどころではございませんでした。

異語。

***さん、あなたが、今、あなたを語ったように、どうやら、あなたも、この学びを浅く、とらえていたような感じですよ。田池留吉の指し示す方向は、そういうものではございません。

確かに、心を見てこられたと思います。しかし、それは、肉を基盤とした中においてに過ぎないんです。

と言つても、このことを、なかなか心で感じることは難しい、そのことを私は、ずっと、ずっと言つてきました。

あなたは、本当に学びをやつてこられましたか。今一度、自分の心に問いかけてください。素直に問いかけてみてください。

異語。

田池留吉が何だ。田池留吉が何だ。私は、私の幸せを求めてきたはずだ。私の幸せはどこにある。私の喜びはどこにある。田池留吉、お前の言うことなど、さっぱり分からん。そのような思いで、ずっとこの学びをやつてきた、そんな感じがします。

ああ、これが私の偽らざる声なんです。この声をしっかりと、今、聞かせていただき、私は、本当に、真剣に自分を見つめてまいります。

なぜ、生まれてきたのか、なぜ、今のこの時間があるのか、しっかりと見つめてまいります。

二五、会員番号1623さんの意識

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

はい、田池留吉を、今、心に呼びます。はい、心の中の真っ黒な、真っ黒な私を感じます。田池留吉の目に歯向かっている私のエネルギーを感じます。心の中の凄まじいエネルギーを感じます。

お母さん、くそつたれ。お母さん、くそつたれ。田池留吉、お前など、死んでしまえ。お母さん、くそつたれ、くそつたれ、くそつたれ。そんな思いを感じます。

ああ、これが、私がずっと、ずっと転生してきた中で培ってきたエネルギーだったんですね。すべてを蹴散らしてきました。己の保身のために、すべてを蹴散らしてきた私を、今、

感じます。

異語。

***さん、心の中の田池留吉に向けて、あなたの凄まじいエネルギーを感じましたか。少し、感じましたか。その少しでもいいんです。あなたの心で感じるということを、大切にしていってください。

この学びは、頭で理解するものではありません。心で感じていく学びです。

どうぞ、日々の瞑想を通して、田池留吉に対する思いを、見ていってください。自分の心を押さえつけても、真っ黒は、真っ黒です。

どれだけ、立派な言葉を並べても、あなたの中は、温もりに帰りたい、本当の自分を取り戻していきたい、そんな思いから、今までの間違ってきた自分をさらけ出したい、何もかも洗いざらいさらけ出したい、そのような思いでいます。

どうぞ、その思いを、しっかりとあなたの頭ではなくて、心で感じていってください。

そんなに簡単に温もりに帰ることはできないし、もちろん、自己供養も難しいです。まずは、自分が間違っただけで存在してきたこと、どれだけ凄まじいエネルギーを蓄え流し続けてきた

か、この宇宙を汚し続けてきたか、そんな自分であることを、お母さんに向ける、そして、田池留吉に向ける瞑想の中で、感じていってください。

異語で、どんどん、あなたの思いを語ってみてください。言葉をつかまらずに、あなたの心に感じる瞑想、それをしていってください。

二六、会員番号1816さんの意識

***さん、あなたの今を語ってみてください。

心の中に何か不満があるとか、そういうのではありません。でも、私の心の中はすっきりと晴れていないことを感じています。

それは、私自身が計画してきた通りに、まだまだその通りの道筋を歩いていないからです。

肉は一生懸命に行こうとしています。しかし、なにぶん肉の思いが強い私には、この肉の自分を、まだまだしつかりと抱えながら、何かもうひとつ自分の中で、すっきりとしない私を感じています。

それはその通りです。なぜならば、私は、そういうことを望んでいなかったからです。

私もまた、母から肉体をいただいた時、自分の間違いを修正するために、そのために私を生んでくださいと、そのように母に言ってきたはずです。

その思いを私は、しっかりと自分の中心に据えていない、それが私の今です。何をどう語ろうとも、私の現実はそうなんです。

色々な現象を通して、自分の道が真っ直ぐに進んでいないことを、私に知らせてくれています。

ただ一点だけを見つめて行きなさい、そう自分の中が言ってくれているような気がします。しかし、心のモヤモヤをすっきりとさせたい思いが現実化してくるには、まだ少し時間がかかりそうです。

田池先生との出会いから、長い年月を経てきました。長いと言っても、私の転生からすれば、ほんの僅かな時間です。その僅かな時間で、しっかりと自分を見つめていくには、あまりにも、私は、多くのものを心につかみ過ぎました。

こうやって、誰憚ることなく、自分を語ることが嬉し、今、そう思います。どんなに取り繕い、どんなに飾ってみても、自分が自分を一番よく知っています。

だから、焦らずに、淡々と、自分に誠実ということなんです。

今世、自分に残された時間、精一杯やってみます。

異語。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、お母さん、申し訳ございません。己が偉いということを、心で感じるには、あまりにも偉すぎました。

私には、何もありません。もうすでに、喜びへの道を示されていました。あとは、自分が、その道にどれだけ近づき、そして、真っ直ぐに進んでいけるか、それだけです。

肉のことを持ち出せば、色々な思いが出てきます。しかし、そんなことは、本当は、どうでもよかったですね。今、田池留吉を思い、お母さんを思ってみると、そのような気がしてなりません。

二七、会員番号1791さんの意識

***さん、本当の自分は何を求めているのか、そして、あなたは何を求めているのか、あなたには、もうそれが分かっていると思います。

どうぞ、語ってみてください。

はい、本当の私は、この私、本当の私に出会ってほしい、この私が私だと、そう心で感じていく方向に歩みたい、歩んでほしいということです。

そして、肉の私は、今、目の前にある様々なことを、まずしてから、この学びをという思いでいます。肉の私という思いをしつかりとつかみ、その上で、この学びをという思いでいます。

***さん、あなたの中に矛盾があり、それがあなたを迷わせているというか、苦しめているというか、そういうことです。

あなたの思うこと、語ること、学びといっても、あなたの基盤は肉にあります。肉のあなたを中心にして、色々なものを見て聞いて、そして、この学びを考えています。

そうだとすることを、まず自分で気付かなければなりません。そうでなければ、どんなに母親の反省をしていこうとも、上滑りの反省に留まってしまいます。上滑りの反省で感じるあなたの闇の部分からは、お母さんの温もりもまた、その程度に留まってしまいます。

年齢も半ば、どうでしょうか。このあたりで、もうどちらか、自分の生き方を決めてみてはどうでしょうか。

あなたは、何のために生まれてきたのですか。なぜ、あなたは、今そこにいるのですか。あなたの中で、はっきりと答えを出す時期だと思います。

肉の生活は、どうでもいいとか、そういうことはありません。

ただ、あなたの中をはっきりとさせること、中がはっきりとしてくれば、肉の生活の流れは、自ずと、それに沿って流れていくものだというのを、体験なさってください。

中のはっきりとした思いに沿って、生活が流れていけば、そこに広がっていく喜びとか幸せは、あなたが、これまで思ってたこられた、考えてこられたそれらとは、雲泥の差があることが分かります。

そうでなければ、せっかくこの学びに繋がったあなたであっても、他力信仰の枠を超えることはなく、あなたがご自身で語っておられるように、今世もまた、足踏み状態になるでしょう。

***さん、あなたのこの学びに対する思いを語ってみてください。

学びに出会ったことを、本当にありがたいものだと思っています。他力のエネルギーを蓄えてきた私には、学びは、とても難しいですが、でも、この学びに出会えなかったら、私は、どうなっていたか分かりません。見当がつかないです。

肉の喜びと幸せ、そのことばかりに心を向けてきた転生でございました。今世も、その延長線上にある自分ですが、少なくとも、私の今の時間、自分の心を見るということ、そして、お母さんを思う瞑想をすること、田池留吉を思う瞑想をすること、それを伝えていただきました。学びを振り返り、他力のエネルギーの中で、私は狂い続けてきた自分を感じています。今世もまた、その中であつた自分でした。どれだけ学びに集っても、私の中は、依然として他力のエネルギーを蓄えた状態のままが、ずっと続きました。今、この時期になって、自分の中が、何かしらそういうことが、はつきりと感じられるようになってきました。他力の心のままの私でした。たくさんのものを心に詰め込んできた私です。幸せを感じるため、喜びを感じるため、

何かに頼ってきた私です。

自分の中からひとつ、ひとつ、離していくこと、解き放していくこと、つかんできたものを離していくこと、それを、私は、これからの時間をかけて、自分なりに学んでいきたいと思っています。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

田池留吉：、田池留吉に心に向ける時、ああ、本当に、私は、何も分かっていなかったんだなあ、心にそう、響いてきます。

心が何かを感じても、それを自分の修正に活用しなければ、何もならないことを、私は、今、しみじみと感じています。

他方のエネルギーを求める心の底に、寂しい思いがしっかりとありました。

寂しい、寂しい私を、しっかりと見つめてまいります。何も求めず、ただ、自分を見つめていくこと、心の寂しさ、寂しさの中にあつた私自身を、しっかりと見つめていこうと、今、

思っています。

二九、会員番号1184さんの意識

***さん、あなたの言うように、己を知ることが喜びです。そうですね、本当にそうだと思います。では、あなた自身、あなたを語ってみてください。

己偉い心を蓄えてきました。そのエネルギーを培ってきました。心の中にたくさんの間違った思いを詰め込んできました。その思いを、しっかりと、今、心に蓄えながら、そびえ立っている自分を感じます。

どうして、私は、これほど偉いのか分かりませんが、自分を感じる時、とても、とても、高いところから見ているような、そんな気がします。

母なんて、蹴散らしてきました。肉の私は、そんなことはないかと否定するでしょうが、私は、私の母親を蹴散らしてきた。何度も転生をしたけれど、そのたびに、母を蹴散らしてきました。母の思いなど要らなかった。母の温もりなんて要らなかった。私は、すべてを牛耳っていくそ

のエネルギーが欲しかったんです。だから、他力の神々に心を任せてきました。他力の神々に心売ってきました。

ああすべてを牛耳る力をください、パワーをください。そうすれば、私は、すべての者の上に立つことができる。すべての人の上に立てば、これほどの幸せはない、これほどの喜びはない。頂点を目指す私は、そんな思いを広げました。

ああ、しかし、そんな思いとは裏腹に、私の転生の中には、語るも無残な転生が、山ほどあります。

すべてを心の奥底に押し込めてきたけれど、その奥底に押し込めてきた思いこそ、私をこの学びに駆り立てたエネルギーでした。

その思いこそ、本当は、真実を求めてきたエネルギーでした。
今、語ることに、そのことを感じます。

語るも無残な自分自身、なぜそこまで墮落してしまったのか。
そうです、私は、自分の本当の姿を心に知りたかったのです。

どんな私でもいい。受け入れてくれるまで、私は、転生を続けます。

心の底のヘド口のような塊、すべてを受け入れるまで、私は、私を見捨てはしません。

異語。

****さん、あなたがあなただと認識している部分は、とてもちっぽけなものだと感じただけかもしれませんか。

そして、あなたの中にも大きな決意があったはずですよ。

どうぞ、真っ直ぐに、自分のその決意のもとに道を進めていってください。心の汚さ、愚かさ、真っ黒なんて、何ということはありません。その底にある本当の自分の思いを感じていけば、どんどん自分を見ていくことが楽しくなっていくはずですよ。

そのためには、基本をしつかりとしないければなりません。

母を思う瞑想を通して、母の思いに触れていきなさい。凄まじいエネルギーとともに、母の思いに触れていくんです。

欲を出さずに、ただ、ただ、真剣にやっていけば、狂うことはありません。

本当のあなたがあなたを導いていってください。

そういうことを伝えてくれた学びでした。もう自分の心に聞いて、自分の心で答えて、そういう段階なのです。学び全体がそういう段階なのです。

どうぞ、焦らず、たゆまず、瞑想を続け、自分が生まれてきた意味がしっかりと心で分か

るようなあなたになっていってください。

三〇、会員番号1680さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

己を誇ってきた、それがひとつ大きな間違いでした。学びを知って、私は益々己を誇ってまいりました。田池留吉に対して、己を認めよという思いを抱えて、私は、この学びに集ってきました。

その間違いに、少しずつですが、今、自分の現象を通して気付かせていただいています。

何一つ自分の思い通りにはならない現象を通して、私は、私の愚かさを見えています。

己が一番でした。認めてほしい思い、それを崩していく転生の数々、今世も、そのひとつに過ぎません。二五〇年後に至る転生も、その中で、私は、苦しみ続けるでしょう。しかし、今、しっかりと自分を見つめていきなさいと、そのように促されている自分を感じます。

今世の私の時間、大切にしていきたいと、今、思っています。

何一つ、誇ることもなかった。私は何だか今、それがとても嬉しい、そう思っています。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、心が敏感な私は、心に何かを感じるたびに、己を認めよと、その思いを前面に出してきました。

申し訳ございません。何も語らずとも、私の中は知っていました。だからこそ、私の今の肉体があり、今の環境があり、これからの時間があるのだと、今、感じています。

田池留吉、自分をもっと、真摯に見つめてまいります。自分をもっと、厳しく見つめてまいります。

***さん、あなたの思いを聞かせてください。

自分の中で学びを、まだまだしつかりと、とらえていないけれど、私もまた、今の時間を自分に与えていることを感じます。

どんなに時間がかかってもいい、しっかりと自分を見つめて、そして、歩んでいきたい、今、そのように思います。

貴重な私の時間、今、心を語りなさいと言われて、そう感じます。貴重な時間でした。たくさんの時間を経てきたことを感じます。

その中の自分、たくさんの自分、今、私は、たくさんの自分を見つめながら、この時間を過ごしているんですね。

少し心に響いてきました。

異語。

***さん、そうです。あなたもあなたに肉体を用意して、時間を用意しました。そして、学びに繋がりました。

学ぶ材料は、あなたの周りにたくさんあると思います。そして、意識の流れを文字にした本、それを繰り返し読み、そして、また瞑想をして、自分を振り返り、そういう時間に可能な限り使っていただください。

自分を大切にすることとは、そういうことです。

あなた自身も、自分はなぜ生まれてきたのか、いつも、いつも、そのことを自分に問いかけながら、瞑想を続けていってください。

異語。

***さん、あなたの中にも、他力のエネルギーがたくさん詰まっています。どうぞ、誰その意識、そういうことは関係がありません。あなたの参考にしていってください。

みんなあなたの心、みんなあなたの世界、そのように、自分で感じる事ができれば、あなたも、自分の中を、もう少し、語ることができると思います。自分の中を語っていくのは、自分です。他力のエネルギー、他力の思いを、どうぞ、しっかりと見ていってください。

三二、会員番号1709さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

何度も、何度も自分の心を見るチャンス逃してきました。

己偉い私は、自分の心を見なくてはと思いつつ、自分のエネルギーをまだまだ軽く、軽く考えています。他力の心の根深さを、自分の中で、まだはつきりと知ることはありません。

傍から見れば、あなた、自分のエネルギーを出しているのではないのと思われがちですが、自身、どれだけこの肉体を通して、そのエネルギーを出させていただけでも、私の中で、それを真正面から受け止めていないことを、感じています。だから、私の道は遅々として進みません。頭では、充分知り尽くしています。こうすればこうなる、ああすればああなる、これはこうでしょう、それは分かっているんです。ああだけど、自分の心が納得していない、中が納得していない、そんな自分を、今、感じています。

異語。

***さん、それでもいいんです。苦しみながら、苦しみ喘ぎ続けながら、何度も落ち込みながら、それでもあなたはこの学びをしていかなければなりません。

それは、あなたが、あなたの中で約束してきたことがあるからです。

本当のあなたとの約束を、あなたは破ることはできません。

どんなに落ち込んでも、どんな状態で今苦しんでいるようにも、あなたは、あなたの心の方向を変えていくために、これからの時間を用意しています。

もっと、心を広げて、自分を見つけてください。

優しい思いで、自分を見つけてください。

ゆったりと自分を見つけてください。

あなたの時間は永遠です。あなたは、あなたを、見捨てることはありません。どうぞ、そのところを、自分の中で、もう少し、素直に感じていってください。

三三、会員番号1112さんの意識

***さん、どうぞ、心を田池留吉に向けて、あなたを語ってみてください。

田池留吉、田池留吉、申し訳ございません。はい、長い年月、私も学ばせていただきました。私は、自分の中を見てきたつもりです。母に向けて瞑想もしてまいりました。

しかし、今ひとつの私を感じています。田池留吉を、心から信じられない私を感じています。なぜなんだろうか。自分に問いかけてみました。

心の中の他力です。他力の思いをしつかりと見てこなかったからです。

私は、他力の反省をしてきたと思ってきました。でも今、田池留吉を思い、その自分を語る時、その他力の反省が、中途半端になっている、いいえ、それどころか、私自身、本当に、自分が間違った道を歩いてきたことが、よく分かっている、そのような感じがします。

上滑りでございました。表面だけを見て、私は、一生懸命やっていると思ってきました。田池留吉、真摯に自分と向き合うということを、簡単に流してきました。

しかし、長い年月、長い時間、私には必要でした。

上滑りの反省でも、反省を重ねてきたことは、確かです。そういうことを重ねてきて、ようやく私は、自分の中が、上滑りの反省だったことに辿り着いたのです。

心の中で気付くことは、容易いことではありませんでした。田池留吉、申し訳ございません。本当に申し訳ございませんでした。

異語。

***さん、よかったですね。心を語れてよかったですね。綺麗に自分を飾ってみても、心の底にある思いは、あなた自身を物語っていました。あなたの波動が物語っていました。

転生を重ねてきた結果、自分は、これからどのように存在していくのかということ、ただ一点にエネルギーを集中させていこうとする思いの強弱を、波動は物語ります。波動は正直です。そういうところから、私は、あなたを感じさせていたきました。あなたの中の他力のエネルギー、今一度、しっかりと見つめてみてください。あなたの中、他にないと思えます。

古くから学ばれてきたあなただからこそ、これまでの反省と瞑想が、本当に生きてくるようになればいいと思います。

長い年月は無駄ではなかった、長い時間が必要だったと、あなた自身は語られました。それならば、ただ一点に自分を集中させてみてください。そこからは、あなた自身の波動を、私は、きっとキャッチできると思えます。

三四、会員番号1708さんの意識

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

この学びに繋がりに嬉しく思っています。人生も終わりに近づき、私は、学びを知りました。そして、今、瞑想を続けています。これからの時間、許す限り、瞑想を続け、自分を振り返っていきたいと思っています。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

田池留吉、田池留吉、お母さん。はい、私は、あなたから生まれてきた。お母さん、田池留吉を呼ぶ時、お母さんが出てきます。

お母さんの優しい思いが感じられます。はい、田池留吉は、その母に向かってあなたが出てきたエネルギーを確認してくださいと伝えてくれています。はい、田池留吉、ありがとう、

ありがとう。

心に蓄えてきました。お母さん、ごめんなさい。間違ってきました、間違ってきました。

異語。

三五、会員番号1564さんの意識

****さん、あなたの思いを語ってみてください。

たくさんの方の反省を続けてきました。母の反省と他の方の反省、私は、この学びに繋がり、長い年月の間、自分なりに反省を続けてきました。

しかし、私の反省は、そう、やはり、肉を基盤とする反省だった。

そのことが少しずつ、今、心に響いてきています。少しずつ認められるようになりました。なぜ、私がチャネラーになったのか。ああそのところを、私は、よく見ていませんでした。肉を基盤とするチャネラーだと、自分の中で認めることができませんでした。

反省文には書きます。間違ってきました、肉を基盤としてきましたと。

でも、心の底の底の底を言えば、自分の感じてきた世界が、みんな肉を基盤としていた世界だったなんて、という思いが、とても強かったです。

しかし、そのことを認めざるを得ないような、今があります。

本当の自分の世界に帰りたい、温もりの世界の中へ自分を帰りたい、そのような思いが、心の底から沸き起こってくれば、私のこんな思いなど、本当に取るに足らないものだったんです。肉の***を掲げてきた思いは、とてもちっぽけな思いだった。

そのことを、自分の中で認め、心の中で本当にそうだと思わない限り、私は、どれだけ何を感じ、どれだけ反省をしようとも、あまり変わらないことを、今、感じています。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

田池留吉、くそつたれ、田池留吉の思いを抱えて生まれてきた私が、自分の思い通りに、その思いを見させてくれてきた、このことが何よりの喜びだと、今、感じます。

くそつたれ、田池留吉。私のくそつたれは、肉を基盤とたくそつたれでございました。くそつたれ、田池留吉。心の底の底から起こるその思いは、大きな喜び。

そのことが、今、ほんの少し自分の中に響いてきます。

三六、会員番号1596さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

はい、凄まじいエネルギーを心に蓄えてきたことを、周りの現象から、そして、自分の身に起こる色々な不都合から感じていきます。エネルギーは感じます。自分の中に爆発的な凄まじいエネルギーがあるのを感じます。

こんな私が、よく母から肉体をいただき、今、このようにまだ肉体を持たせていただいているなあ、私はしみじみ思っています。

こんなにすごいエネルギーを蓄えてきた私なのに、今もまだ肉体細胞は動き続けてくれます。

そう思うと、私は嬉しいんです。自分の中の凄まじいエネルギーを感じれば感じるほど、今の自分をありがたく思います。瞑想をすれば、そう感じます。ですが、目を開けて日常生活に

戻る私の目を通して、耳を通して入ってくる映像などで、その微かに感じた優しい私の思いが乱れ、かき消されていく、そんな日々を繰り返してきました。

心のエネルギーを感じさせてくれる肉があるし、それを感じさせてくれる肉がいる。

苦しいけれど、どうしようもない自分だけれど、本当に愛の中に包まれている自分だと、私はこの肉体を終える時まで、少しずつでもいいから、その思いを心に感じながら、死んでいきたいと、今、思っています。

異語。

***さん、お母さんを思い、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、お母さん。はい、素直になることが嬉しいって伝わってきます。本当に小さかった頃、私は、素直でした。母のおっぱいを吸いながら、私は、お母ちゃん、嬉しいって、嬉しいって、そう思っていた。今、その心に触れています。

ありがとう、今、その心に触れている。ただ、嬉しかった。安らいでいました。

三七、会員番号15999さんの意識

***さん、どうぞ、頭を動かさず、思いをあなたの中に向けてみてください。どうぞ、そのまま、あなたを語ってみてください。

苦しい思い、寂しい思い、色々な思いを心に感じます。瞑想をしていくと、私の中に様々な思いが上がってきます。おそらく、私の過去世達でしょう。たくさん思いを抱えて、私は、今ここに居ることを感じています。

ああでも、それよりも、心の中の苦しさも、心の中の哀しさも、寂しさも、色々感じるけれど、私は、やはりこうやって自分を感じる事ができる今を、嬉しく思っています。

心に伝わってくる思いを、私は、素直に自分に伝えられないところがあります。私は、本当は、もっと素直なんですよ。もっと、素直だった。

たくさん間違いを繰り返してきたけれど、私の思いは、素直な私を、もっと自分の中で

広げて確認していくことでした。本当は、もっと、自分を語りたい。凄まじいエネルギーを抱えてきた自分を語ることを恐れてきました。

素直にもっと語りなさい、心の中から伝わってきます。

心をもっと広げていってください、そのようにも伝わってきます。

この私の中の思いに、もっと素直になってみようと、今、思っています。

心が上がってくる思い、すごいエネルギーがあります。

私も、凄まじいエネルギーの中を繋いできた自分を、感じていきます。

異語。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉。たくさんの私をもっと、もっと、知っていききたいです。田池留吉、心が苦しいことを、もっと、もっと自分の心で感じていきたいです。苦しい私がたくさんいます。

心の中に私は、本当の優しさを伝えていきたい。苦しい私に優しい思いを伝えていきたいです。

ああこれが、私が今ここにある本当の意味でした。自分を優しく包んでいくこと、そのことをするために生まれてきました。

お母さん、ありがとうございます。愚か者同士、すごいエネルギーでぶつかり合ってきました。でも、私の中にそのエネルギーを見させてくれるから嬉しいって伝わってきます。お母さん、もう少し、学ばせてください。

三八、会員番号1149さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心を見ることをしていません。私は、今、何を思い、自分が、今、何を感じているのか、心を見ることをしてこなかった私は、何も語ることができないというのが、本当のところですよ。

ああ、しかし、ただ、これだけは、肉の自分に伝えたいと思いました。

私は、苦しいです。何も分からずに、ずっと、転生を繰り返してきた私が、今ここにあることを知ってください。

私は、苦しいです。苦しみの奥底から、このように私は、今世も、肉体を母からいただきました。そして、人生の半分以上を過ごしています。でも、私の中は、何も変わってはいない。ただただ苦しかった。

自分が何を思い、何を感じ、何をよしとしてきたのか、転生のたびに違うけれど、苦しかったのには変わりはありません。

今、私は、苦しいということを、自分に伝えたい。

どんなにこの肉の欲望を満たしたところで、私の中は、苦しかった。

ただその一点を、私は、私に伝えたい。今、心を語りなさいと言ってくれたから、言います。私は、苦しいです。

***さん、どうでしょうか。あなたがあなたを語る時、ただ苦しいって、あなたは語りました。それがどういうことか、あなた自身、もう少し、しっかりとお母さんの反省を通して、心を見てみてください。

今世も苦しかったはずです。心の中の苦しみが、あなたの中から溢れてきた場面が、何度も、

何度も、今世もあつたはずです。

あなたは、それを、何とか、何とかと抑えてこられました。

もう自分を抑えることはやめてください。

苦しかったら、なぜ苦しかったのか、その思いを、どうぞ、ノートに書き出すとか、して
いってください。

お母さんに使ってきた心を見ていくのが、一番の近道なのです。どんな些細な思いでもい
いです。とにかく思い出して、あなたの心の中を覗いてみてください。

異語。

今、ようやく、真実の方向に、心を向けるチャンスを自分で作ったあなたです。どうぞ、今
世の時間を大切にしていってください。

この学びは、何を伝えているのか、しっかりと本を読み、そして、素直になって、お母さ
んを思ってみてください。

三九、会員番号1134さんの意識

***さん、他力の反省はどうでしょうか。他力信仰に使ってきた思いを見てきましたか。

他力のエネルギーを蓄えてきた私は、その中にまだどっぷりの私を感じています。確かに、この学びは本当だと感じています。本当のことを伝えてくれていたあの場集わせていただいたことを喜んでるのは確かです。

ああしかし、私の中で、自分が過去よりずっと溜め込んできた他力の神々に向けた思いを、まだはつきりとしつかりと感じていません。

子供に対して凄まじい思いを流している自分を感じます。周囲の人達に対して、凄まじい思いを流している自分を感じます。

私は、それをまだまだ自分の中で、抑えているような現実があります。

それが、自分の中から自由に解き放していくことがなければ、いくら、この学びしかないと思っけていても、私を感じている世界は、やはり、ずれているのだと、私自身、思っています。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中に田池留吉を思う時、はい、はい、とても私の中に抵抗する思いがございます。肉の私には、まだその思いが響いていないけれど、私の中に、田池留吉のほうに心に向けているなということを盛んに言ってくる私があるのを感じます。

田池留吉の目を恐れてきました。田池留吉を恐れてきた。田池留吉に心に向けているなという私の中があるのを感じます。

ああこれが私の他力の心、他力の世界、私が作ってきた他力の世界でございました。今、そのことを、少し、感じさせていただきました。

四〇、会員番号1811さんの意識

*****さん、どうぞ、あなたの思いを語ってみてください。

学びを知り、自分の心を見ることをやっている私ですが、とても、この学びは難しいというのが、私の実感です。

私には、私の生活があり、肉の私があります。周りにはみんなそうです。社会の中で私が生きていくには、ある程度社会に合わせていかなければなりません。私は、まだそういうところで、何かしら自分が足踏みしているのを感じます。

***さん、焦らずにゆっくりでいいんです。もちろん、生きていくためには、色々な肉のことをしなければなりません。しかし、その中で、あなたはこの学びを知りました。その事実、その現実を、あなたは、今、どのように思っていますか。

異語。

私は、***の中の意識でございます。心を見てくれ、心を見てくれ、心を見てくれ。苦しい自分をもつと感じていってください。私達を感じていってください。

間違ってきたことを感じていってください。あなたが生まれてきたのは、そのためです。私達の苦しみを心に感じていってください。あなたが何をしても、何を思っても、ただただ、私

達のほうに心を向けてくださればいいんです。苦しいです。苦しいです。はい、肉体に、このひとつの肉体に思いを込めてきた私達に、心を向けてください。お母さんを思ってください。もっと優しくなっていくってください。私達は、あなたの今の肉体が、唯一の望みです。その肉体を通して心を見ていって、お母さんの思いを感じて、それらが、どれだけ違っているのか感じてください。

お母さんの思いに心を合わせていってください。心を向けてくれることを、待っています。

異語。

***さん、今、あなたの中の思いを少しだけ聞いていただきました。

肉をつかんでいるあなたにとっては、まだまだ遠い、遠い世界のことかもしれません。でも、これがあなたの現実です。肉のあなたはあなたであって、あなたでないことを、感じていってください。

これから、様々な場面で、その中の思いに出会っていくと思います。

どうぞ、その時、自分は今、何のためにここにあるのか、今、私の目の前に広がっていることは、私に何かを知らせているのではないのか、そういうところから、自分を見つめてくだ

さい。肉の側から物事を見るのではなく、あなたの思いを基準として、物事を見ていってください。

四一、会員番号1037さんの意識

***さん、あなたは、どの程度、これまでセミナーに集ってこられましたか。そして、今、どの程度、この学びについて、田池留吉について、学んでおられますか。あなたに思いを向けた時、他力のエネルギーにびっしりと包まれていることを、感じます。

どうぞ、その他力のエネルギーを、あなた自身、今、感じていってください。

異語。

母親など、私には必要なかった。母親など、私には必要なかったという思いを抱えて、私は、今世もまた生まれてきた。なのに、私は、この学びに繋がりました。母親の温もりを自分の中に思い起こす学びに繋がりました。

他力のエネルギーの中で苦しんできた私です。

何を求めても、その中では、全く幸せではありませんでした。

他力の神々に、どれだけ思いを向けても、私は地獄の奥底で苦しみ喘ぎ続けてきました。だから、今世、この学びに繋がりがりたかったのです。

他力のエネルギーは、すごいです。今、自分の中をこのように語ることが不思議なくらい、私は、そのエネルギーに押し潰されているような私を感じます。真っ黒な、真っ黒な世界にある私を感じます。

それでもなお、このように肉体をいただき、田池留吉という肉を知り、学びを知った私があります。そのことを、あなた自身知ってくださいと、今、語らせていただいております。

異語。

****さん、どうでしょうか。あなたの意識の世界、今、心でほんの少し感じられたと思います。どうぞ、母親の反省を進めていってください。

どんなにしても、生まれてきたかったあなたの思いに行き着くまで、あなたを生んでくださったお母さんに対して使った思いを、瞑想を通し、心に思い起こしてください。それしかあ

りません。

今世を逃すことは、あなたにとって、とても厳しいでしょう。

それほど、あなたは、今世、生まれてきたかったし、他力の中にある自分に、少しでも安らぎをという思いが強いと、私は、感じさせていただきました。

あなた自身の学びです。あなた自身のこれからの行く末を思い、どうぞ、素直になって、とにかく、母親の反省をして、田池留吉を思う瞑想をしていてください。

あなたの現実、今、あなた自身が語られたように、他力の中にどっぷりです。その現実を、肉を通して、今、知ったあなたは、どのようにこれからの時間を過ごしていくか、それはあなたの選択です。

何はさておき、あなたの中の思いの必死さを感じてください。そうすれば、速やかに、するべきことはされると思います。

四二、会員番号1098さんの意識

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

お母さんに使ってきた心を振り返っていますが、心の中の思いを見ていくことは難しいです。母に使ってきた心、たくさん、たくさんあるような気がします。

しかし、どれもこれも、私は、そんなに自分は母に対して無理を言っただけで、わがままを言っただけで、母も私を邪険には扱わなかった、そういうところで、私は、表面だけの思いを振り返っているだけです。

それが、私の中のエネルギーのすごさに繋がってこない。それが私の現状です。

***さん、それでは、お母さんを思ってみてください。お母さんのほうに心を向けてみてください。

異語。

お母さん、お母さん、心の中の苦しさを、私は、押し込めてきました。たくさんの間違いを繰り返してきた私にとって、母という存在は、とても大きなものでした。その母の存在を隠れ蓑にしてきました。

母に頼ってれば大丈夫、母が私を守ってくれる、母に背けば、私の明日がない、そんな
思いで、私はずっときました。

母って何だろうかと、今、思います。私の守り神だったんでしょか。

そんな母に対して、私は、本当に自分をさらけ出していたのかと言えば、そうではありま
せん。心の中を押し隠しながら、母に従ってきた。そんな私を感じます。ああ、これが私の他
力へと繋がる道筋でした。

他力の神々に逆らわないで、自分の思いを抑え、ただただ、守ってくださいと縋ってきた
ような気がします。

自分の心を自分の言葉で語ることなく、私は来たような気がします。自分が哀れでなりま
せん。心を押し隠して、抑え込んできた自分が哀れでなりません。

異語。

***さん、どうぞ、ご自分を思つて瞑想をしてください。真つ暗な、真つ暗な中で苦
しみ喘いでいたあなたに間違いありません。

このことは、あなた自身が自分の心で感じなければ、納得しないでしようが、あなたに思

いを向けた時、あなたの意識の世界の底知れぬ暗闇を感じます。お母さんを思い、瞑想をしてください。

四三、会員番号1216さんの意識

****さん、心を語ってみてください。

自分の蒔いてきた種とはいえ、他力の中に沈んできた私です。その私を思う時、愚かな私ですが、今、ようやく、その愚かな私を少しずつでも認めて受け入れていくことができる今を感じています。

本当に自分で蒔いてきた種です。自業自得の道でした。他力の神々を求めてきた私は、自業自得の中で苦しみ続けてきました。

それを、今の肉体を通して、自分に少しずつ伝えていける時間を嬉しく思っています。

まだまだ、自分の中の他力のエネルギーを、しっかりと真正面からとらえていません。真つ黒な塊を感じるけれども、その真つ黒な塊をまだ、私は、充分にとらえ切れていないことを、

感じています。それでも、ようやく、私は、本当に愚かな自分であったことを、感じさせていていただいています。

田池留吉に向かうエネルギーの中で、そのことを今世、ようやく感じる自分でした。

異語。

***さん、どうぞ、自分を見限らずに見捨てずに、トコトン自分と付き合っていてください。愚かな自分、本当に愚かな自分に、そう、トコトン付き合っていてください。

自分に真摯に生きる、誠実に生きる、自分の本当の思いにほんの僅かでも応えていける自分を感じていく、それがあなたの喜び、幸せの道です。

そうです、誰もあなたを救うことはできません。あなたは、あなたでしか救えない、それだけを、しっかりと心に留め置いて、これからの肉の時間、そして、これからの転生、自分の中でしっかりと自分を見ていってください。

他力の神々に心売ってきたからこそ、あなたは、今世、この学びに繋がったのです。言ってみれば、愚かな道を選び苦しみ続けてきたけれど、本当に間違ってきましたと、心から自分に懺悔の思いが湧いて出てくれば、愚かな過去は、みんな喜びに変わっていきます。その道

は厳しくて険しいけれど、本当のあなた自身は、そうしていきたくらいと思ってるのではないのでしょうか。本当の自分の思いに伝えていく、それにはどうすればいいのか、取捨選択は自分にかかっています。

その現実をしつかりと自分の中でとらえ、今という時を喜んでいつてください。

四四、会員番号1775さんの意識

***さん、あなたのその真っ黒なエネルギー、真っ黒なあなたを、今、心で感じていつてください。

心を田池留吉から逃れたい。田池留吉から逃げたい。田池留吉の中に私は、存在したくない。ああそんなことあってたまるものか。我は素晴らしい神なるぞ。心の中をもっと見つめろ。私は素晴らしい。心の中の平和を唱えてきた。私は、素晴らしい、はい、そのように思っています。

転生の数々の中で、私は、自分が崇められることに大きな喜びを感じてまいりました。

もちろん、そのような転生ばかりではございません。それはもちろんそうですが、しかし、私の中には、崇めよ、崇めよ、崇めなさい、我を見よ、その思いが、とても強いです。

私は、神なり。私は、素晴らしい神なり。そのように、自分を思つてまいりました。高く、高く掲げた己を崩していくことが、まだできません。

田池留吉の中に入ることを拒否している私がございます。

我こそ素晴らしい、そのような思いを心に抱えています。

異語。

***さん、今、あなたはあなた自身を語りました。その意識の世界、どうでしょうか、あなたは、納得できますでしょうか。心に感じるでしょうか。

しっかりとご自分のエネルギーを感じていってください。

たくさんの方のエネルギーをその意識の世界に携えているあなたです。どうぞ、そのエネルギーを感じてください。

異語。

私は、***の意識でございます。はい、そうです、心の中が苦しくてなりません。大きな大きな世界が私の世界であるのに、私は自分を、小さな、小さな枠の中に押し留めていることを感じています。ああしかし、その小さな枠の世界を、私自身、小さな枠だとは、まだ感じてはいない。大きな、大きな世界だと思っています。

心を田池留吉に向けることができななんです。私は、田池留吉に心が向かない、向けられない、そんな私がいいます。これが私の現実でございます。

何度も、何度も伝えました。だけど、私のこの思いを、素直に受け入れてくれない意識の世界があることを感じます。だから、ともに崩れていきたい。私は、間違ってきた。苦しい、苦しい、間違ってきた。そのことを、今世、気付きたかった、気付きたい、そのようにお伝えしています。

四五、会員番号1114さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってください。

この学びに繋がりが嬉しく思っています。心を見て、瞑想をして、自分の間違いに自分で気付いていくことを教えていただきました。

私も、真つ暗な中で苦しみ喘いでいる意識として、今、このように、肉体を通してこの学びを知り、そして、自分の肉体をそちらの方向に使えることを、嬉しく思っています。

ああ間違ってきました。心の中の凄まじいエネルギーを感じます。私は、このエネルギーの中に自分を押し込めてきました。自分を見失ってきました。今、そのように感じています。

異語。

***さん、はい、あなたもかつては、たくさんの人を導いてきたことがございます。心を間違った方向に使ってきました。そのような過去世もたくさんあると思います。

そんなあなたが、今世、お母さんから肉体をいただき、この学びに繋がって、自分の間違いに気付いていく計画を立てました。

どうぞ、素晴らしい自分だと掲げる思い、そんな自分の思いをもっと見ていってください。心の中の暗闇、もっと、もっと、見ていってください。

お母さんの思いを心に感じ、そして、大きな間違いを繰り返してきた過去の時間を振り返り、今世、そして、これからの転生へと、自分を繋いでいってください。淡々と、その道を歩いていってください。

今、あなたが語ったように、この学びに繋がったことは、大きな喜びです。すべて、ご自分が計画されてきたことですけれども、その計画を可能な限り活用していってください。

それがあなたに対する優しさ、そう、自分に対する優しさです。

お母さんの温もりを心に感じれば、自分の計画が頓挫することはない、絶対にならないことを、あなたが証明していってください。

四六、会員番号1535さんの意識

****さん、今のあなたの思いを語ってみてください。

長い年月、学ばせていただいています。私も、そう、長い間、学んでいます。心の中にたくさんの思いを引きずりながら、それでも、今までこの学びを自分の中から遠ざけることなく

やつてくれたことが不思議です。

たくさんのお力をやつてきました。本当にたくさんのお力の道を歩いてきました。長い、長い時間です。今、私は、そのことを振り返っています。

本当に長い時間をかけて、私は、今、ようやくこの学びに集えたんですね。自分を振り返る学びに繋がったんですね。しみじみそう感じます。

欲で学んでまいりました。本当に愚かでございました。

ただ、そう思います。私の今の思いは、欲で学んできた、本当に愚かだったということです。そんな私を感じています。

***さん、田池留吉のほうに心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中に凄まじいエネルギーを蓄えてきた私にとって、田池留吉に出会うことが、これほどすごいことだったとは思いませんでした。

本当に浅く考えていました。学びを浅くとらえていました。

こんなに凄まじいエネルギーを抱えてきた私だからこそ、今世、田池留吉と出会えたのですね。この学びに繋がったのですね。本当にそれを、浅く、浅くとらえていたように思います。軽く、軽くとらえていたように思います。

私としては、一生懸命に学んできたつもりです。

しかし、自分の中を、今、振り返る時間の中で、私を感じていることは、これほどまでに、自分の中のエネルギーがすごいということを、思えなかったことです。

異語。

田池留吉、私は、この肉体をいただいたこと、それだけが喜びだったんですね。大きな間違いをしてまいりました。

自分を思えば思うほど、何も語れない私を、今感じています。

田池留吉、私は、真実の前に何も語る事ができない、そう、これが本当のところですよ。申し訳ございません。

四七、会員番号1537さんの意識

***さん、お母さんに対する思いを語ってみてください。

私は、母親を嫌ってきました。母親が大嫌いでした。私は、母の姿を見て、ああ、これが私の姿なのか、そうではない、そんなはずはない、それを認めることができませんでした。全く肉でした。母も肉なら私も肉、肉の中で、私は苦しみ続けてきました。

母の思いを心を感じることもございます。瞑想をして、お母さんの思いを感じることもございます。しかし、私の中には、そういう思いを吹き飛ばすほどの真つ黒なエネルギーが、まだまだしっかりと心の中に残っているのです。

お母さんを思い、田池留吉を思い瞑想をなさい、そして、母を語れと言われました。

私は、母を語ることができません。母を見下してきた。その思いから、なぜ母親の反省なのかと…、そんな私があります。それよりも、私に、何かを授けてくれるものを探し続けました。

母親の中に、それがあつただなんて、まだ信じられないです。

お母さんを思いなさい。お母さんを語りなさいですか。

はい、私は、母親を語る時、自分の汚い、汚い思い、汚い、汚い意識の世界を語ることになるかと思っています。

すべてを見下げてきました。我一番の世界を広げてきました。

どれだけこの心にその思いを培ってきたことか、すべて、すべて、我一番でした。

異語。

***さん、どうぞ、あなたが作ってきた他力の世界を、自分の中で感じていってください。他力の中に本当にどっふりのあなたを感じます。

どれだけ学びに繋がり、自分の心を見ようと、あなたの中は、依然として、他力一色です。この学びの言わんとするところを、あなたはご存知ですか。

自分に冷たいことを、もっと、もっと知っていってください。自分に冷たいんです。心の冷たさを感じてください。

もう、すべてを捨て置いて、自分を見つめる、それしかないと思います。

おそらく、あなた自身は、ここまで思っておられないと思います。やはり、どこかに甘さがあるのではないのでしょうか。しかし、このくらいの思いで、自分の中を見つめていこうとし

なければ、他力の世界を自分の中で崩していくことは難しいでしょう。

それだけの部厚い壁がある、私はそのように感じます。

しかし、それも、あなたの思い方ひとつで、心の決め方ひとつで、変わっていく可能性を秘めているのです。私はそれもまた感じます。

ただし、それには、先にあるように、すべてを捨て置いてということが大前提になるかと思えます。それがあなたにできるかどうかは、あなた次第です。

四八、会員番号1536さんの意識

***さん、お母さんに心を向けてみてください。

母親の思いを知らずに、私は育ってきました。母を思うと苦しいって出てきます。母にすべてを牛耳られてきた自分があったからです。

確かに、母は立派だったと思います。しかし、そのエネルギーはすごい。私は、そのエネルギーを感じてきました。

ああ、心は外に向いていました。私は自分を見ることなく、心は、いつも、いつも外に向いていました。

***さん、あなたは、この学びに繋がり、喜んでいますか。

そうですね、よく分かりません。しかし、私は、この学びを捨て切れずにいます。おそらく、私の中は、何とか、何とかという思いがあるのでしょう。しかし、あまりにも自分が作ってきた他力のエネルギーの壁の部厚さに、ほとんど手も足も出ない今を感じています。

母親の反省にしても、他力の反省にしても、私は、今ひとつのところでは。

セミナーには集わせていただきました。心を感じるところもございます。ですが、やはり、私も他力の中につぼりと自分を沈めてしまつて、その中から、この学びを、田池留吉を見えたのかなあと、今、感じています。学びに繋がって嬉しいですか、はいと即答できないのが残念です。

私も、心の中に、真実を求めてきたはずなのに、なぜこんなところにまだ自分を押し留めているのか、これが、過去から私が広げてきた他力の呪縛というものなのか、今、そのように感じています。

***さん、諦めることなく、自分を見つめていくことをしていつてください。あなたも語られたように、他力の壁は確かに、厚いです。

たくさんの過去世達の思いをドーンと心に蓄えながら、あなたは、今そこにあります。過去世達は、みんな他力の神々に心向け、縋ってきました。それが、あなたの現実です。その中で、今、あなたができることは、やはり、この学びで示された道筋を淡々と進めていくことだけでしょう。

肉は愚かです。肉の頭では何も分らないんです。この学びを知り、セミナーにも集われずつと今までやってこられた事実を大切に、これからの肉の時間、いかにして過ごしていくか、あなたの心に聞いてみてください。

異語。

他力のエネルギーにがんじがらめなのは、あなただけではありません。みんなその中から、今世、少しでも自分を解放していく足がかりを見つかけようと必死だし、一生懸命です。

肉のあなたが、諦めたり放棄したりしては、元も子ありません。

ただ、中は必死なんだ、そう、自分に言い聞かせて、これからの時間を送っていつてくたさい。

四九、会員番号1697さんの意識

***さん、心の中のアマテラスを語りなさい。

心の中にアマテラスを奉ってきた私でございます。アマテラスを神として崇め奉ってきたこの心の中、アマテラスを崩していくことができない私がございます。大いなる神、アマテラス。私は、アマテラスにすべてを捧げてまいりました。しかし、今のこの肉は、まだ私の存在に気付いておりません。なぜならば、すべてが肉だからです。

私の中が、どれほどアマテラス一色であるのか、肉は知りません。肉は肉しか見ていない。自分の意識の世界を感じることを、まだしておりません。

アマテラスに心売ってきた私は、今世、肉体をいただきました。

この苦しい思いを自分の中で解き放していくために、肉体を願い出しました。

心の中のアマテラスでございます。アマテラスを素晴らしい神として崇め奉ってきたこの

心が苦しくてなりません。どうぞ、肉よ、私の存在に気付いてください。あなたの中でアマテラスは苦しんでいます。心をもっと見ていってください。

異語。

***さん、あなたは、日常生活の中で、形を整えようとする思いが強くなりませんか。すべてアマテラスの支配の中にあることを知っていきましょう。ひとつ、ひとつ、自分の行動を振り返る、まずはそこから始めていきましょう。私は、あなたを感じる時、アマテラスのエネルギーの中にすっぽりと入ってしまったているあなたを感じます。アマテラスと一体化しているあなたを感じます。

あなたは、あなた自身を知らないんです。その中に埋もれているあなたは、アマテラスのエネルギーがどのようなエネルギーであるのか、まだその肉に響いてきていません。だから、まずは、生活の中で、自分の行動の基準となるもの、あなたがよしとしてきたこと、ひとつ、ひとつ、振り返っていきましょう。

それと、あなたは、アマテラスのエネルギーを心でとらえようとするのではなくて、頭でとらえようとしています。それでは、いつまで経っても分かりません。

あなたがもう少し敏感であれば、セミナー会場で、アマテラスのほうに心を向ける瞑想をした時、その肉体を通して、あなたが培ってきたアマテラスの世界が具体的に、心で感じられると思います。

いいえ、あなたは、敏感なはずです。

ただ、今は、アマテラスに逆らうことなどできないという思いがあなたの中にあるから、あなたはそのエネルギーを抑えるエネルギーのほうが優っていると思ってください。

あなたの中のアマテラスは、心から救いの手を差し伸べています。

お母さんの反省をして、お母さんを思う時、ありがとう、お母さん、そういう思いが出てきますか。

あなたは、お母さんに対して、とても冷たくて厳しい思いを流しているのではないでしょうか。自分の基準で、お母さんを切り捨ててきたことはございませんか。

お母さんに対する思いを、まずはしっかりと見ていってください。

あなたの中で、お母さんから流れる本当の優しさを感じなければ、アマテラスが苦しがつていることが分らないのです。

あなたは、あなたにとっても冷たくて厳しいです。なぜならば、あなたは、アマテラスそのものだからです。これは、頭では絶対に理解できません。

だから、母親の反省、毎日同じことでもいいんです。繰り返し、見ていってください。

そのような過程を経て、あなたがアマテラスに思いを向けた時、あなたの中でアマテラスが愛しいと思えるようになればいいんです。ただそれには、自分の中に作ってきたアマテラスの世界のすごさを、実感しなければならぬということです。

氷のように冷たいけれど、しかし、アマテラスも温もりを求めていることを、自分の心の中で感じていけば、ともに、アマテラスとともに帰ろう、そういう思いが湧いて出てくるはずですよ。

そうしたとき、あなたの中のアマテラスが、とても愛しく感じられます。

そうなつて初めて、アマテラスは素直に語ってくるでしょう、間違つてまいりましたと。

この一連の作業が、いわゆる自己供養です。

あなたは、自分の中のアマテラスに本当のことを伝えたいがために、今世、生まれてきて、こうして、学びに繋がっていると、私は、感じていきます。と言つても、これは、私が感じることであつて、当のあなたが、その心で感じる事ができなければ、どうすることもできませんが、しかし、これだけは言えます。心の中にあるアマテラスのエネルギー、それは、温もりに間違いありません。

五〇、会員番号1077さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

心を閉ざして生きてきた私に、母の思いが微かに届きます。はい、間違ってきました。他力の道を歩んできました。お母さんを私は遠ざけてきました。私は温もりを遠ざけてきました。私自身を遠ざけてきた。心に感じることは、そういうことです。微かに感じます。

心の中が寂しくてたまりません。お母さんを遠ざけてきた私の中は、真つ暗でした。

頭でとらえてきた学びでした。私は、頭を過信してきました。己の頭を過信してきました。反省も、頭を使ってやってきたように思います。心で感じることの尊さが、私には、なかなか分かりませんでした。頭が動きました。肉は真面目にやってきました。しかし、肉の真面目さは、頭を過信することでした。私の場合、そうでございました。

異語。

***さん、どうぞ、自分の心を見る時間、つまり、瞑想をする時間を充分に取って、あなたの中をもっと覗いてみてください。

ご主人に対して、子供さんに対して、あなたの心をどのように使ってきましたか。形は控えめでも、エネルギーの鋭さ、つまり冷たさを、あなたは感じておられますか。ご主人に対して、子供さんに対して、もちろん、ご自分に対して、どれだけ冷たい心で接してきたか、今のあなたならば、それが感じられると思います。

心の中を覗いてみて、少しずつ自分の間違いを感じている今のあなたなら、自分の出してきた思いのすごさを、これから、瞑想をすることによって、心で感じられると思います。どうぞ、楽しみに、それを感じてみてください。

エネルギーを感じることに、自分の間違ったエネルギーを感じることは、すべて喜びです。あなたが喜びだから、どんなに冷たくて、どんなに凄まじくても、それを感じられることが、もう喜びです。

そういうところが、ご自分の心に、もっとはつきりと響いてくれば、たとえば、遠いところからセミナーに集ってきたあなた自身、どれだけの思いで、そういうことを続けてこられたか、それが心に響いてきたりして、その他、色々なところから喜びが、じわじわと感じてくると思います。どうぞ、楽しんで反省をして、瞑想をして、ご家族とともに、学びを深めていっ

てください。

五一、会員番号1147さんの意識

***さん、あなたの思いを聞かせてください。

心の中に作ってきた世界を、私は、自分の中に見ています。真っ黒な、真っ黒な世界、心に感じます。この世に生まれてきて、私は、自分の中を、今、語れることが嬉しいです。

お母さん、お母さん、お母さん……。お母さんに対して、すごいエネルギーを流してきました。生まれ変わっても、私は同じでした。自分を生んでくれた母親に対して、私は、凄まじいエネルギーをぶつけてきました。

この私を、今世、生んでくださったあなたにも、私は、凄まじいエネルギーを流し続けてきました。今も、流し続けています。

私の中を見なさいと、あなたの意識が伝えてくれている、そのことを感じます。これから、私も自分の人生が開いていくと思います。

色々な事に出会い、自分の中の苦しみを感じるでしょう。お母さん、私は、自分を見てください。あなたに生んでいただいたことを、心から嬉しい、ありがとうと、本当に言えるようになるまで、この肉体を通して、自分自身を見てまいります。

***さん、これから、あなたの中の思いを、どんどん感じる出来事が、周りに起こってくるでしょう。

どうぞ、あなたのその肉体を通して、自分の中を感じていってください。これからです。心の中の他力のエネルギー、母親を何度も殺し続けてきた他力のエネルギーが、あなたの中にもぎゅっしりと詰まっています。

どうぞ、母に使った思いを見ていくと同時に、他力の神々に向けてきた思いを感じていってください。

とは言っても、あなたはまだ若いから、まず、あなたの肉としての基盤を固めていってください。その過程の中で、あなた自身のエネルギーを、どんどん感じていけばいいのです。肉としての基盤を、ある程度整えることも、この学びをしていくためには必要です。言ってみれば、肉の自立です。なぜならば、心を見るには、健全な肉が必要だからです。肉の中に生きてきた意識にとって、肉が健全な状態でないと、やはり、この学びを継続し、ある程度の成果を

上げることは難しいというのが現実のところだと思えます。その上で、どんな時も、お母さんの思いに立ち戻れるあなたであるようにしていけばいい、これが、正しい学び方だと思えます。

五二、会員番号1364さんの意識

***さん、心を語ってみてください。

はい、心の中の思い、どんどんエネルギーとして感じられます。何をどう語っていいのか分かりません。ただただ私は、凄まじいエネルギーを蓄えてきたことを心に感じ、それが異語となつて飛び出てきます。

心の中をじっくりと掘り下げることが、まだまだ難しいです。

今は、まだまだ表面的なところで、自分のエネルギーに飲み込まれそうな私自身を感じています。ああ、これが、私はずっと培ってきた他力のエネルギーなんだ、そう思います。そのエネルギーに今まで飲み込まれてきたんだなあ、そんな感じがします。心の中を見るということを知らなかった私は、いつも、いつもそのエネルギーを自分で追い求め、そして、結局は、

そのエネルギーの中に自分を沈めていった、そのような繰り返しだが、私の過去だった、そんな感じがします。

私は、心を感じる事がございます。心に色々なものを感じます。心が、敏感なのだと思えます。本当に自分をしっかりと見つめていかなければ、私の今世もまた、自分を自分で狂わせていってしまうだろう、そう思います。

だから、今世こそ、このようにして、ようやく学びに集えたのですね。

もう、学びの終わりの頃になって、私は、ようやく集えたのですね。でも、その時間に関係がないと思います。ようやく知ったこの学びを通して、私自身を見つめていくこと、自分の中の狂った意識に母の温もりを伝えていくこと、私には、そうすることが、自分が一番望んできたことだった、今、語らせていただいて、そのように心に響いてきます。

***さん、田池留吉のほうに心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、心の中に、田池留吉を呼ぶ時に、私の中は、何とも言えない思いを

感じます。向きたい思いと向きたくない思いとが、交錯する中で、私の中は、荒れ狂っていることを感じます。

はい、……田池留吉、心をあなたに向けていきたい、今、自分の中で、その思いを感じました。向きたくない思いもあるけれど、向きたいという思いを強く感じている私がございます。自分を真つ暗な中から救い出したい、その必死な思いを信じて、田池留吉に素直に心に向けていけるようにやっていきます。

異語。

***さん、あなたの事情がどのようなものか、私には分かりませんが、できるならば、セミナー会場に集えるならば、可能な限り集ってきてください。あなたにとって、セミナー会場で瞑想をする機会を得ることが、大切なことだと感じます。

少ないチャンスだけれど、その少ない時間を、出来る限り、あなた自身のために使っていただく。セミナー会場で、真剣に、母を思い、田池留吉を思い、そして、あなた自身を広げてきた他力の世界を知っていくこと、あなたの心で知っていくこと、それが、これからのあなたにとって、大きな足がかりとなるのではないのでしょうか。

自分の苦しい心をどうかしてくださいとか、そういうのではなくて、真剣に自分と向き合うということを学んでいく、そのような機会を、一回でも多く持っていたいただきたい、あなたを感じ、私は、そのように思いました。

五三、会員番号1116さんの意識

***さん、あなたの中の戦いのエネルギーをご存知でしょうか。

いいえ、私は、自分の中が、それだけ荒れ狂っているとは、まだ自覚しておりません。心を見てきたつもりです。静かに、静かに、自分を振り返ってきたつもりです。ああでも、そう言われれば、水面下に広がっている自分の意識の世界を、ほとんど知らないも同然だと、今、感じます。

戦いのエネルギーですか。そうなんですかね。私も、しっかりとそのエネルギーを蓄えてきた意識なんですね。今、真つ直ぐに聞かれて、私は、何か、不意を突かれたような気がします。ああ、心を見ることが、そういうことだったんだ、今、そのように感じています。

***さん、どうぞ、田池留吉の目を見て、あなたの思いを語ってみてください。

異語。

田池留吉、心の中に蓄えてきたぞ、蓄えてきた。お前を殺してやるエネルギーを蓄えてきた。こんな凄まじいエネルギーをお前の目は、すべてを見通しているというのか。

私は、自分を隠してきた。戦いのエネルギーを隠してきました。形は、穏やかに繕ってきました。しかし、自分の心の世界、意識の世界の戦いのエネルギーを、田池留吉の目は、鋭く見ていました。だから、田池留吉の目を見て、私は、素直に、自分を語ることをしてきませんでした。

自分が暴露されることが、たまらなかつたです。心の中にこんなにすごいエネルギーを蓄えてきた私であることを、自分自身、認めたいけれど、認められない、そんな私が、今ごさいます。

異語。

***さん、あなたの過去世達の思い、本当の自分に背いてきた他力のエネルギーの凄まじさ、とても、とても、今世だけでは、すべてを見ていくことはできないと思います。しかし、私は、あなたの中の戦いのエネルギーに、今、思いを向けさせていただきました。

これから、あなたの中を、瞑想をする中で見ていってください。

心の底の底から、あなたのドス黒いエネルギーが、出てくると思います。肉のあなたに響いてくるのは、少し難しいかもしれませんが、意識の世界に、少しでも刺激を与えていただきます。

どうぞ、しっかりとお母さんを思い、田池留吉を思い、瞑想をしていってください。

時間の許す限り、あなたを振り返り、本当にあなたの意識の世界を思うことを、やっています。つってください。

五四、会員番号1361さんの意識

***さん、今のあなたの思いを語ってみてください。

私も長い間、学ばせていただいています。本当に長い間、学ばせていただいています。これが自分に対する優しさなのか、私は、今、自分を振り返り、そう感じています。

お母さん、ありがとう。私を生んでくださったからこそ、この学びに繋がることができました。肉体を持ったからこそ、この学びに繋がることができました。肉はどんなに怠惰でも、私は、それがとても嬉しいです。肉の思いは、まだまだ、四方八方に散っているという感じですが、その肉に対して、私は嬉しい、そう伝えていきます。

***さん、どうでしょうか。あなたの中の思いを、少し語っていただきました。この思いを、あなたは信じることができますか。

素直で一生懸命なあなた自身を信じて、歩みが鈍いながらも、この学びを、しっかりと歩いてください。

日常生活の中で、喜んで心を見ていってください。

どんなに愚かなあなたであっても、どんなに凄まじいエネルギーを出しているあなたであっても、中の思いとともに歩みを進めていけること、それが、肉のあなたにとって、一番の喜びだと思います。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、はい、申し訳ございません。自分に自分が与えた時間です。自分を振り返り、本当の自分の思いに、少しでも近づいていけるように、これからの時を刻みたいと思います。他力の中で存在してきた私に、これからの二五〇年という時間が用意されているということ、今、嬉しく思います。心の中の優しさ、温もり、私も、ぜひ、二五〇年後に、自分の中でしっかりと確認していききたい、今、そのように感じます。

五五、会員番号1443さんの意識

***さん、思いを語ってみてください。

心を語りなさいと言われて、今、そうですね、何を語ろうかと思っています。自分の中を、そっくりそのまま、全部、全部、間違ってきたと語りたいけれど、私の中には、まだまだ自分を正しいとする思いが残っていると思います。

ですが、私の中も、学びの年月を経て、少しずつですが、変わってきているのを感じます。心が楽になりました。心が少しずつ軽くなってきたのは事実です。

夫に対して、子供に対して、そして、周りの人達に対して、私の流す波動は、本当にすごかったと、今、少し感じさせていただいています。

それを思う時、みんなにごめんねって素直に言える私があるのが、嬉しいです。以前は違いました。こんな小さなことに、喜びを見出せる私ではありませんでした。でも、こんな小さなことではありませんでした。それが、とても、大切なことだった。今はそう感じます。

心を見るたくさんの機会を得てきたことが、私には嬉しいです。

立派な自分、素晴らしい自分を崩していくために、心を見続けています。

自分の思うようにいかなかったことがあればあるほど、己が高かったんだ、そびえ立つ自分があったんだ、そうやって、自分を振り返っています。

今は、ただ、こうして、この学びに繋がったことを、嬉しく思います。

凄まじいエネルギーの中を生き続けてきた私の過去、今世も色々ありましたが、今世ほど幸せな時間はないように、今、思います。

***さん、よかったですね。立派な自分、素晴らしい自分なんて必要ななかったことを、どうぞ、もつと、もつと、心にかけていってください。

もつと、もつと、優しくなっていてください。

そうなっていけば、今世の喜び、幸せもそうですが、それとは比較にならないほどの、あなたの二五〇年後が待っていると思います。

しかし、これは、これからのあなた次第です。

心を落とすのもあなたなら、心を飛ばたかせるのも、あなたです。

異語。

***さん、宇宙を思ってみてください。

異語。

はい、宇宙に広がっている私達の仲間、心に向ける時、とても苦しい思いを感じます。あ
あでも、今、心を宇宙に向けた時、ああ、私は、間違ってきた、私達は間違ってきたという思
いを感じます。

お母さんに心に向けていきましよう、そうやって、私の仲間、心に向けることをやってい
きます。

肉の私は、もうよかったです。心を宇宙に向けた時、もっと、もっと、私が心に向けてい
かなければならないことが分かりました。

ああ、私の中の宇宙、はい、心に向けてくれることを待っていた、そう今、感じます。 田池留吉、
アルバート、ありがとうございます。

真つ黒な宇宙を心に広げてきた私に、思いを向けさせていただきました。

五六、会員番号1459さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心の苦しさを奥に押し込んで、私は、自分を偽って生きてまいりました。そのことがとても苦しいです。自分の中の苦しみと真向かいになれない自分を感じる時、それが私には一番辛いです。

反省をして、瞑想を続けてきましたが、自分の中に、もう一歩足を踏み込めない私自身を、今感じています。

この学びは、確かに自分に色々な気づきを与えてくれました。
セミナーに集い、自分のエネルギーを感じさせていた 때도ございました。しかし、私は、やはり、この肉、肉の生活、肉の家族、肉としての自分の思いを、どうしても心から離すことができずにいるのが、苦しいのです。どれだけ自分のエネルギーを感じようが、反省と瞑想を繰り返しても、自分の本当に思う通りに歩めないということが、何とも歯がゆい今を感じます。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

***の意識でございます。田池留吉、心の底から田池留吉に出会いたかった。本当の私、お母さんの温もりに出会いたかった。私も、今、感じます。どれだけ肉にまみれて、どれだけ心を落としても、私は私に出会いたい。だから、今世、このように生まれてきました。

学びを知ったけれど、学んでいく環境は厳しく、学びを遠くに感じたことも、度々ありました。しかし、私は、どうしても、この学びから離れることはできません。心の中の苦しさが突き上がってくるからです。誤魔化しても、押し込めても、心の中のエネルギーは突き上がってきます。

田池留吉、ああ、もっと、もっと、自分を軽く解き放していきたいです。エネルギーのすごさを感じます。ああ、私は、温もりに帰りたいと思った思いを、今、感じさせていただけます。

異語。

***さん、あなたの中の思いを聞いて、どうでしょうか。

人には、それぞれの歩み方があると思います。あなたには、もちろん、肉の生活があるから、この学び一筋には…という今のあなたの現実があると思います。それでも、あなたの中の思いを、どうぞ、しっかりと、心で確認していつてください。

あなたも、また強い決意を持つて、この世に生まれ出てこられたことを、私は感じます。そして、これからの転生の中で、自分の計画があることもあなたの意識は、言ってきたと思っています。

焦らずに、一步、一步、地道な作業かもしれませんが、反省と瞑想を繰り返していつてくください。中の必死な思い、どうぞ、心にとしっかりと受けていつてくください。

異語。

お母さん、申し訳ございません。こんな私に肉体をいただいたことを、今、少しずつですが、嬉しく思える自分があります。

学びにもう一步足を踏み出せないのは、肉をつかんでいるからだ、自分で思っています。私の中の思いは、とても必死なことを、今、感じます。肉をつかんでいる思いが苦しいと私に

伝えてきます。

しかし、私は、この肉の生活を放棄するわけにはいきません。

この中で、私自身を見つめる、エネルギーを感じていく、私は、苦しみながらも迷いながらも、必死で自分を見つめていこうとしています。

この学びしかないという思いが、私の中には、しっかりとあります。

生活の安泰、金を稼ぐこと、家族の喜びと幸せ、自分の欲を満たすこと、どれもこれも、本当はどうでもいいようなことですが、私は、その中において、自分に計画してきた道筋を歩いてまいります。

そびえ立ってきた自分を見つめ、そのエネルギーのすごさを見つめ、これからもやっていくと思います。心を、田池留吉に向けること、本当の自分に向けること、それを自分の中で確認するために、私は、この申し込みをさせていただきした。肉の私が思っているよりも、中は、必死だし、真剣だし、真面目だと思っています。

お母さん、この学びに繋がって、自分を少しでも見つめることができる今を、喜んでいきます。母の温もりによって、私が今、ここにあることを、心の底から感じられる日がくるまで、自分を見つめてまいります。

五七、会員番号1441さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

小さい頃より、学びを感じてきました。私の意識の世界は、この学びに触れてきました。そういう機会を持つてきました。今は、肉も成長していて、色々な思いを感じます。お母さんに素直でなかったなあと、今、私は、自分を振り返っています。

小さな、小さな頃、お母さんに素直だった私を思うと、今世、ほんの少し時間を重ねてきただけで、もうこんなに素直でない自分が、たくさん感じられます。これからも、私は、自分の生きていく時間の中で、様々な人と出会い、色々な出来事に遭遇して、自分のすごいエネルギーを感じていくのでしょうか。

今、自分が学んできた時間の長さを振り返り、お母さん、大きくなるということは、こういうことだったんですね、そんな私を、今、感じています。

異語。

****さん、学びをしていく上で、恵まれた環境にありますね。たくさんのことを学んでいってください。お父さんも、お母さんも、この学びに繋がっていますから、みんながそれぞれ自分の思いを、素直に語り合えばいいんです。自分を修正するために、そのような仲間が、あなたの周りにはいます。どうぞ、そのことを、大切にしていってください。

あなたのお父さんやお母さんであって、そうではない、そういうことも、これからのあなたなら、心で感じていくことができるかと思えます。色々な可能性を秘めて、あなたの時間が、これから展開されていきます。

心押し込めるのではなく、心を解き放つ方向に、あなたの時間を活用していってください。

五八、会員番号1725さんの意識

****さん、あなたの思いを聞かせてください。

肉、肉、肉の中に、ずっと存在してきました。今も、私は肉です。肉の中にあり、この学

びに繋がっていると思っっています。心を見ること、田池留吉に心を合わせることに、お母さんの反省、そのような流れの中で、私は、自分を振り返る今という時を、本当にもつたいなく過ごしてきたなあ、そのように思っっています。凄まじいエネルギーを蓄えてきた。私も例外ではありません。すべてを牛耳ってきた、すべてを支配してきました。

アマテラスの心そのもので生きてきた私に、田池留吉は、母の反省をしなさいと伝えてくれました。心の中が、煮えくり返りました。私は、正しく生きてきた、私は間違っていない、いつも、いつも、そのように、歯向かってきました。どこがどんなに正しいのか、今思えば、本当に滑稽な私があります。何年も、何年も学ばせていただいた今、本当に、自分の中が素直でなかったと思っいます。これが、ずっと他力の中に生き続けてきた私の現実です。

素直でなかった。田池留吉、申し訳ございません。今、私は、このように語らせていただっいています。長く学ばせていただいたけれど、本当にお粗末な私を感じ、自分ながら、情けない思いも出てきます。しかし、まだまだ、今世、時間の許す限り、自分を見つめていこうと思っいます。母に向けて出してしてきたエネルギーのすごさ、じっくりと瞑想する中で、自分と向き合っつていこう、今、語らせていただき、改めて、そのように思っいました。

異語。

*****さん、田池留吉に対して歯向かってきたエネルギーのすごさ、あなたは素直でなかったと語られました。そうですね、素直なようで素直でなかったあなたの意識の世界が、心の奥底に、大きく、大きく、広がっています。どうぞ、素直とはどういうことか、自分に訊ね、そして、瞑想をする時間を持つていてください。

肉のことは程々に、ただ、そこにこだわるあなたの思いを、もつと深く見つめてみてください。そこにあなたのエネルギーが感じられると思います。素直なゼロ歳の時のあなたの思いに立ち戻り、どうぞ、これからの時間、過ごして行ってください。

五九、会員番号1395さんの意識

*****さん、そうですね、あなたはとても敏感です。しかし、端的に言えば、あなたはあなたに冷たいんです。素直になって行ってください。敏感な中を、もっと優しく見つめていてください。

では、あなたのその敏感な意識の世界に思いを向けてみましょう。

異語。

私は、***の意識でございます。心の中に培ってきた他力の神々に対する思いは、とても、すごいものがございます。

田池留吉、何する者ぞ。なぜ、今、私は、田池留吉の前にこのようにして、心を語らねばならないのだ。こんなに苦しいではないか。田池留吉の目を見て瞑想することなどはならぬ。真つ暗な、真つ暗な世界を、お前は、まだまだ知らない。心に向けるな、田池留吉に心に向けるな、向けるでない。お前を破滅させてやるぞ。

今、私の中の他力のエネルギーの思いを聞かせていただきました。心に向けるな、心に向けるな、そのように語っていました。私は、どうすればいいのでしょうか。

このように私に伝えてくる意識達がございます。恐怖でございます。狂うのではないか、そんな恐怖を抱えながら、それでも、私は、自分の中のエネルギーが、自然に出ていってしまいます。田池留吉の姿を見ると、目を見ると、自分の中からエネルギーが飛び出していく、そんな体験を、セミナー会場でさせていただいています。

私は私に冷たい。そのところが私には、よく分かりません。このようにエネルギーを感じているけれども、今ひとつ、そこから踏み出せないのは、そういうことだったのでしょいか。

異語。

***さん、あなたの現実を、しっかりと心で知ってください。

破壊させてやるぞと脅してくるのもあなた自身です。あなたなんです。あなたがあなたに伝えている思い、その思いを心に感じて、あなたは、恐怖する思いが広がっていると思います。そうではありません。確かに、あなたの中は狂っています。それは、あなたの中が、母の温もりを忘れ去った状態だからです。お母さんの温もりを思い出す、お母さんの温もりになしでも触れていけば、その恐怖の思いは、たちどころに小さくなり、そして、消えていきます。自分に自分が優しくなるということは、頭では理解できません。自分に優しくしようとしても、頭、つまり肉ではできないのです。

今、狂い続けてきたあなたの過去すべてが、一斉に、声を上げていると思ってください。それを承知で、あなたは、この学びに繋がりました。学びに繋がりが、セミナー会場に来ればどうなるのか、あなたは、分かっていたはずですが。他力のエネルギーはすごいけれど、そのエネ

ルギーがあればこそ、自分を真実の道へ繋ぐことができるのです。そのところを、あなた自身、しっかりと、お勉強なさってください。

難しいことは要りません。お母さんに使ってきた思いを、繰り返し確認し、そして、母を思う瞑想をする、ただそれだけです。

その作業は、地道な作業でしょう。肉では、こんなことをして、いったいどうなるのかと思いかも知れません。しかし、その作業を重ねていけば、必ず、自分の中から、悲痛なる叫びが聞こえてきます。それは、脅しなどというそんな低次元のものではなく、そんなものをはるかに超えた心の叫びです。そこに行き着くまで、お母さんの反省を繰り返し、狂った自分の意識に思いを向けていってください。

自分の心の叫びを聞く、これこそ自分に優しいということなのです。

六〇、会員番号1485さんの意識

***さん、あなたは、この学び一筋でしょうか。

はい、私は、学び一筋とは言えないと思います。ただ、自分の中の暗さ、苦しき、間違ってきたこと、それを感じます。しかし、なかなか、学び一筋にはなれないです。ああそうですね、そこに私のポイントがあったんですね。学び一筋に思いを向けていく、それほど、私は、まだこの学びにエネルギーを集中させているわけではないことを、今、感じさせていただきました。ああこれが、肉の思いが強いということです。

肉のことを整えて、そして、自分の意識の世界を思う、そうですね。これが私の足踏み状態の原因でございました。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、お母さん、心の中に、私は母を求めています。もっと、もっと、真剣に自分と向かい合いたいと、心の中から突き上がってくるのを感じます。田池留吉、申し訳ございませ

ん。この思いに、素直に従ってこなかった私を感じます。

はい、そうでした。私の中は、もっと、もっと、自分を見つめてくれ、もっと、もっと、田池留吉のほうに思いを向けて時間を過ごしていつてくれ、そのように、伝えてくれています。申し訳ございません。

異語。

***さん、あなたの中の思いを、少し語らせていただきました。

どうぞ、あなたももう、肉のことは、程々にして、せつかくこの学びに繋がったのですから、もう少し、心を向けていつてください。

なぜ、今、自分が肉体を持って、ここに存在しているのか、しっかりと問いかげながら、一日を送っていく、そういう意気込みというか、そういう思いでないと、なかなか、この学びを遂行していくことは難しいです。あなたの肉の年齢からすれば、もうそうしていかなければならぬのではないのでしょうか。

これは、あなたに限ったことではありませんが、学びに繋がったことがどうということなのか、それを自分の心で本当に知るまでに至っていない人が多いのが現状です。結局は、肉の次元で、

学びを知ったことを喜んで、だから、喜びもそこそこというところに留まってしまいました。学び一筋、この言葉の重み、あなたに響いているでしょうか。あなたの中の思いは知っています。だから、あなたは、今世、生まれてきました。そういうことが、肉にまで響いてくれば、この学びに対するあなたの取り組み方は、変わってくると思います。

六一、会員番号1011さんの意識

***さん、あなたの心を語ってみてください。

田池留吉、申し訳ございません。自分の現実を感じます。学びに対する現実を感じます。今の私の場を感じます。瞑想をすると、それが、心に響いてきます。私は、何を学んできたのだろうかと思います。

一生懸命にやってきたけれど、心の中の思いは、あまり変わっていない、そのような感じがしています。自分に甘く、甘くきた、そんな感じですが。

お母さんの反省をして、瞑想をして、お母さんを思っただけ嬉しかったこともあります。そ

う、あります。だけど、心の底に、母を許せない思いが渦巻いているのを感じます。母を許せない、私の中に母に対する思い、許せない思いが、しっかりと残っていることを、もう私は、自分の中で見ていかなければなりません。

こんなに母を憎み、こんなに母を恨み、すべてを呪い恨んできた自分の意識の世界を、私はしっかりと見つめていきたいです。

自分を誤魔化すことはできないことを、今、感じさせていただいています。

どんなに取り繕っても、どんなにいい格好をしても、自分の現実には現実です。私は、嬉しいです、私は、よかったですと、一瞬は思います。その時は、本当にそのように思うんです。でも、それは、すべて肉でございました。肉の中から出ていない幸せと喜び、それを、もう、私は、認めざるを得ない、私の今です。

異語。

***さん、自分の中をさらけ出してください。もっと、自分の中をさらけ出してってください。心を落とさず、心を小さくせず、しっかりと自分のこれから先を見つめていってください。

過去のあなたは、すべて、ブラックです。すべて、間違ってきました。

このことがお分かりでしょうか。何もかもみんなブラックだったのです。母を恨み、母を憎んできた意識に、良いも悪いもありません。すべてが間違い、すべてがブラック、自分の心がそこに行き着くまで、自分を見つめ、心をさらけ出していつてください。狂い続けてきたあなた自身を心で感じ、これからの時間にあるあなたを、しっかりとと思う毎日を過ごしていつてください。

六二、会員番号1262さんの意識

***さん、どうぞ、あなたの頭を外してください。頭を動かすな、頭を回すなど言っても、今のあなたには難しいかもしれませんが、頭を回している限り、心の世界、あなた自身を感じることはできません。

少しは、感じます。心に響いてくる世界もあります。しかし、所詮は肉です。頭を動かしている限り、土台は、もちろん肉です。そのことを、しっかりと、今、心に留め置いてください。では、田池留吉のほうに、ともに心を向けてみましょう。

異語。

田池留吉、心の中の苦しさをまだまだ、私は吐き出していません。しっかりと、しっかりと自分をさらけ出しているわけではございません。

心が苦しいです。荒れ狂ってきた自分の中のエネルギーをしっかりと、私自身をしっかりと抱きしめてやりたいけれど、私は、まだまだそのエネルギーの中に埋もれています。そのエネルギーに飲み込まれる恐怖を感じています。

私も自分に冷たいです。どれだけ私自身を救いたかったか。そのために、今世、このように生まれてきたけれど、私は、私を救うことができない今を感じます。

ああすべてが私でございました。人どころではありませんでした。

私の中は暗闇です。ブラックのエネルギーを抱えてきた私を、私自身どうすることもできなかった、それが私の過去でございます。

田池留吉、まだまだ、心を語ることができないけれど、ほんの少し、心を語らせていただきます。どこに私の喜びがあるのか、今、このような状態です。

異語。

***さん、これがあなたの現実です。しっかりと自分の現実を見据えながら、心を見つめていってください。

お母さんに生んでいただいたことを、本当に心からありがとうございます。あなたは言えますか。言えないと思います。

お母さん、ありがとう、生まれてきて嬉しいです、この思いを心の中に広げていくには、あなたには、まだまだ自分の思いを、しっかりと自分の中で見つめていかなければなりません。

学びを甘く見ないでください。しっかりと、自分を見つめることをやっていってください。今世の時間、残された時間、しっかりと見つめていってください。自分を見つめていくんです。自分のエネルギーを見つめていくんです。己の偉いあなたです。頭では何も分からないことが分かっていない、あなたの今を感じます。

厳しいかもしれませんが、現実をしっかりと見つめていくこと、そこから、まず始めていってください。

六三、会員番号1594さんの意識

***さん、他力の反省が進んでいません。今、あなたの中の他力の神々に思いを語っていただきます。どうぞ、思いを向けてみてください。

よくぞ、よくぞ言ってくれた。我ら苦しい意識、すべてを代表して、今、お前がそこにいる。我らを代表して、お前がいる。そのことを、どれだけ心に感じているか。お前は冷たい。自分に対して冷たい。私達の苦しみを心から感じてくれ。母の反省をしてくれ。母に使った思いがあるだろう。心の中の苦しさ、もつと、もつと身近に感じてくれ。間違ってきたことを認めてくれ。どれだけ他力の神々に縋ってこようが、そのパワーを心に集めようが、我らは苦しかった。そういうことを心の中に、もつと、もつと感じていってくれ。

他力のエネルギーの凄まじさを、これから心に感じさせてやる。すごいエネルギーを培ってきたぞ。すべてを破壊してきた。お前の肉体細胞などぶっ飛ばすエネルギーだ。そうだ、お前の肉体細胞だけではない。周りにすごいエネルギーを流しているお前を感じる。

もつと、もつと優しくなってくれ。上から我らを見るな。お前も同じじゃないか。そう、そのために、今、その肉体を持っているのではないか。心の苦しさを感ずるために、お前の目が

あり、耳があり、すべてがある。そういうことを、もっと、知ってくれ。

異語。

***さん、どれだけあなた自身を語っても、今のあなたは、これを理解することは難しいと思います。ですが、どうぞ、諦めずに放棄せずに、あなたの肉の時間を全とうしていただく。肉は、ただ、心を見るためにあります。その思いを心に感じれば、今ここで語ったあなたの中の思い、痛烈に響いてくると思います。

他力の壁は、確かに厚いです。だから、今世だけではなく、来世も、その次も転生が続いていくのだと思います。苦しい中を、どうぞ、心を繋ぐことを忘れないでください。そのため今世です。何か足がかりを自分の中で、つかんでいってください。必死になって生まれてきたあなたを感じていけば、もう、自分を見つめるしかない、そんな思いを、肉のあなたも感じ、できる限り、やれるだけのことはやってみよう、真摯に誠実に、自分と向き合っていくのではないでしょうか。

自分が生きるか死ぬかの瀬戸際、決して、これは大げさな表現ではないことを、あなたに伝えておきます。

六四、会員番号1565さんの意識

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

己が偉かった。本当に己が偉かったです。今も、凄まじいエネルギーを流していると思います。私は、この時期にきて、ようやく、その己の偉さの片鱗を感じさせていただいています。すべてをさらけ出したいと思いました。心の中に詰まっているエネルギーは、すべて間違ってきたことをさらけ出したいと思いました。

心を見てきて、私は、本当に自分の愚かさが分かっていなかった、今、そのように感じます。自分の中で、自分が培ってきたエネルギーのすごさを感じています。すべて私でございませした。主人や子供は、それを伝えてくれていました。それが私には、分かっているようで分かっていなかった。どれだけの愛の中にあっただのか、私自身、この手の中から失くしてみても、ようやく気付いているお粗末さでございます。

心を見ることが難しいと痛感しています。素直でなかったんですね。ポイントを外した学

び方をしてきた、今は、それを痛切に感じています。

異語。

***さん、たくさんの心を見る機会を得てられました。そうですね、本当に素晴らしい環境の中に、あなたはあつたと思います。

もちろん、これからも、あなたは素晴らしい環境を用意しています。その中で、しっかりとやっていってください。

異語で、どんどんあなたの思いを語っていってください。異語は、頭を回さずに出てくる、あなたの素直な思いです。

お母さんに対して使ってきた心、ご主人に対して使ってきた心、子供さんに対して使ってきた心、すべて、あなたの己偉いエネルギーによって、見えなくしてきました。みんな、みんな、あなたのすごさに気付いてください、そのように伝えてくれたはずですよ。

たくさんの学びの時間を経てきたあなたです。学びのポイントは外れていたかもしれないかもしれませんが、その膨大な時間は、決してあなたにとって無駄にはならないと思います。なぜならば、あなたは、自分はポイントの外した学び方をしてきたことに、気付いているからです。

どうぞ、残された肉の時間、絶えず自分を見つめ、自分を振り返り、自分と対話していく、そのような時間に使っていただく。

***さん、田池留吉のほうに心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、はい、本当に申し訳ございません。心をしっかりと見つめてまいります。今まで、自分が培ってきたエネルギーのすごさを、本当に甘くとらえてまいりました。田池留吉との出会いを、どれだけ軽く見てきたことか。私は、そのように、今、感じさせていただいています。田池留吉を見下してきた自分を、もっと、もっと、見つめてまいります。

ああ、お母さん、申し訳ございません。母に対してすごいエネルギーを流してきました。母の意識に逆らってきた私を感じます。はい、心を、もっと、もっと見つめてまいります。

***さん、あなたの今を語ってみてください。

今は、肉的には何もありません。あれだけ苦しんできたのに、昔の私が嘘みたいです。今、何が幸せかと言えば、こうして瞑想をして、自分を振り返る時間があること、そう言える私があるのが、今、一番幸せです。

しかし、この肉は、欲いっぱいです。自分の中を信じることをしていません。肉で何とか、何とかという思いが、とても強いのです。

今、自分が幸せだと感じている中の私のことを、もう少し信じてくれればいいのですけれど、肉は、本当に愚かです。

いつも、私は、あなたに伝えていきます。

お母さんに使ってきた心を振り返り、あなたを見ていくんですよ。ご主人に優しくしてください。ご主人をどのように思っていますか。

それが、あなたのとりあえずのパロメーターだと、私は、いつも、あなたに伝えていきます。自分を信じていってくださいと、私は、あなたに伝えていきます。

肉のあなたは、本当に愚かです。たくさんのことを、もう学んできたではないですか。これからの時間、その学んできたことを、じっくりと自分の中で見つめ直してください。本当に、たくさんのことを学んできた、そんなあなたが、今、一番幸せだ、そのように思えるまで、じっくりと、自分を見つめていってください。

他力のエネルギーを欲してきた私達です。今、あなたの肉を通して、私達は、そのことを学ばせていただいています。愚かな肉ですが、肉がなければ、私達は、永遠に、地獄の奥底に沈んだままです。

あなたの肉を通して、私達は学んでいることを、あなた、もう少し、感じていってください。

異語。

***さん、私はあなた、あなたは私、ひとつ、という意味が、少しあなたの中で感じられるでしょうか。

あなたの中のたくさんの苦しいエネルギー、間違った意識達、今、必死に、あなたの肉を通して、学んでいます。

どうぞ、肉のあなた、しっかりと、そのことに気付いていってください。

あなたの中は、必死です。肉は、それに従うだけではないでしょうか。

ご主人とともに、学びを進めていくこと、それが、あなたのこれからするべきことです。たくさんの過去世を抱えてきたあなた、今世、ようやく、初めて、そのことを知ったあなた、どうぞ、欲の思いを見つめ、もう少し、自分の中を信じる方向に、心を見ていってください。

六六、会員番号1793さんの意識

****さん、あなたの思いを語ってみてください。

心を見ることをやっていない私には、心を語れと言われても、何を語ればいいのか分かりません。自分の中を見つめる、自分のエネルギーを感じていく、そういう学びに、私は、なぜかしら、今世繋がりました。自分の中が望んできたことだと言われれば、そのような気がしません。しかし、私は、肉です。肉の私の生活が何より大切です。そんな中で、心を見るといことが、とても難しい。難しいというよりも、地道な作業のような気がします。心を見て、私は幸せになれるのだろうか、心を見てどうなるのだろうか、そんな思いが先行していきます。で

ですが、あなたの意識ですのところが読むと、それは本当に納得するんです。まるで、自分の中が語っているような、そんな気がしてなりません。

***さん、お母さんに対して、これはどなたも同じですが、凄まじい心を使ってきたのです。半端な思いではありません。どうぞ、あなたも、あなたのお母さんに対して出してきた思いを、しっかりと見ていってください。そうです、すごいエネルギーを流してきたはずですが、自分を偽らないでください。この意味が、今は、よく分からなくても、お母さんに使ってきた思いを見に行くこと、お母さんにどんな思いで接してきたか、その都度の心を、まずは見ていってください。

私達は、今の肉体を半端な思いで持ってきたのではないことを、あなた自身の心で感じていってほしいのです。

あなたは、何をするために生まれてきたのですか。

あなたの人生って、いったい何なのでしょうか。

もう少し、しっかりと、自分を見つめていってください。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、心を向けることを拒否している私があります。

お前は、汚くない。お前の心を見るな、見るな。そうやって、私の中を遮る私自身を感じます。自分の幸せのために、すべてを求めてきたこの心の中のエネルギー、他力のエネルギー、他力の神々に縋ってきた、他力の神々に頼ってきた、そんな私を、まだまだ私は、しっかりと心に隠しています。

自分が苦しいことすら分かりません。

なぜなのか。何も分からない状態です。他力の中にすっぽり、そう、その通りです。この中から抜け出すのには、まず、私が行動を起こさなければなりません。田池留吉は、そのように伝えてくれているような気がします。田池留吉の目を見ると、そういうふう伝わってきます。

あなたは、あなたの心を見つめていきなさい。あなたを見つめていくんです。あなたの中を、ただただ見つめていきなさい。そのように伝わってきます。

六七、会員番号1577さんの意識

あなたの学びに対する動機を見ていってください。

学びを真剣にとらえていないです。学びの動機が間違っています。私は田池留吉にパワーを求めてきました。自分の中の素晴らしいパワーを田池留吉によって引き出してほしかったんです。

田池留吉、あなたはすごいパワーの持ち主ですね。私は、あなたをそのように見ていました。心を見ることをしておりません。心に何かを感じ、それが肉体を通して自分の目の前に現象として現れるけれど、それが自分の意識の世界からの伝言だとは思っていません。いいえ、思えないのです。

***さん、そうですね、あなたの学びの動機が違っていること、学びに対する思いが違っていること、あなたが語った通りです。

今の状態では、心に何を感じても苦しいだけです。そこから、自分をどうすることもでき

ないのです。どうぞ、ご自分と真向かいになっていってください。この学びに対する思いを変えていってください。

異語。

***さん、一言で言うならば、あなたはあなたに冷たい。自分に冷たい。ただこんなことを感じている、あんなことを感じている、それがあなたの中の悲痛なる心の叫びだということに、あなたは思いが至っていません。冷たいからです。お母さんの反省をしてみましたか。お母さんに使ってきた思いをひとつ、ひとつ、思い出し、見えましたか。

あなたの心は、以前、あなたが心を向けてきたところに、まだまだ向いています。しっかりとそちらのほうに向いています。

形はセミナーに集い、この学びをと、やっておられるかもしれませんが、あなたの意識は、そちらのほうに向いているのです。

自分を見つめ直していくしかありません。それは、あなたがやっていくしかないのです。途轍もなく、己の偉いあなたがあります。己が偉くて己に冷たい、そんなあなたの今です。

何をどうすればいいのか、あなたの許には、たくさんさんの学ぶ材料があり、本当にやってい

こうとすれば、色々な資料があると思います。一から始めてください。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心に向けてみてください。

異語。

田池です。***さん、どうぞ、お母さんの思いをあなた自身の心で知っていつてください。お母さんに使ってきた心を、ひとつ、ひとつ、見ていつてください。田池留吉に齒向かっているあなたがあるでしょう。お母さんに齒向かってきたあなたがあるでしょう。それを見ているのは、あなた自身です。

私は、あなたに、もうすでに伝えていきます。

あなたは、あなたの心を見ること、お母さんの反省をすること、素直になることです。私、田池留吉を見くびらないでください。

六八、会員番号1319さんの意識

****さん、あなたは、今、幸せですか。

私は、あまり幸せではないと思います。いいえ、全然幸せではないと思います。自分の中が苦しいんです。苦しい、苦しい、苦しい、苦しい、苦しい、苦しい、毎日、毎日、自分の中が叫んでいきます。苦しい私を置き去りにして、私は、幸せなはずはありません。肉の私は、早く何とかしたい、この中から、何とか自分を救い出したい、そんな焦りの思いを出しています。

自分の中が苦しいって言っているのに、私はそんな私を置いてきぼりにしているんです。それが冷たいということが、私には、まだよく分かりません。私なのに、私なのに、しかし、私は私だとは思っていないのかもしれない。だから、こんなに平気で自分の中の苦しさを、足蹴にしているんだと、私は、今、思います。

****さん、あなたの心は敏感です。色々なものを感じているでしょう。だから、もつと真剣にお母さんの反省をしていってください。

お母さんに生んでいただいたことを、どのように思っていますか。

お母さんに育てていただいたことを、どのように思っていますか。

そして、あなたは、この学びに繋がってどうでしょうか。あなたは幸せではないと言いました。なぜ、幸せでないと考えるのでしょうか。

学びに繋がっているんですよ。学びを肉で知ったんですよ。そんなあなたが、なぜ、あなたは幸せでないと考えるのですか。そのところから、もう少し、自分自身を振り返ってみてください。自分を大切にしてください。今の自分の時間を大切にしてください。

あなた、このまま死んでいっていいのでしょうか、この本を、あなたは、もう読まれましたか。どうぞ、手に取って、真剣に読んでください。

そして、あなた自身に聞いてみてください。瞑想も、反省も、すべて、あなたとあなたの中で行う作業です。

どうぞ、もっと、言うなれば、あなたの切なる思いと真向かいになってみてください。

異語。

***さん、あなたは、セミナーに参加されて、どれだけ自分のエネルギーを、その肉体を通して感じてきましたか。現象の時間に参加されてどうでしたでしょうか。

学びは古くても、その体験があまりないのではないのでしょうか。

古くから学んでいる人達は、セミナー会場で、思う存分自分のエネルギーを出すという機会に恵まれてきました。言ってみれば、それが学びの時間の長い人達の幸せな点だったのです。肉の事情があると思います。来たくても、セミナー参加が思うようにはできなかつたというところもあるでしょう。

しかし、そこで感じた人ならば分かります。みんな、必死なんです。一生懸命なんです。自分と真向かいになることは難しいと分かりつつ、セミナーの現象の時間を大切に学んでこれたと思います。

そのような二泊三日のセミナーが、数にしてみれば、三百回以上開催されてきたことは、あなたもご存知だと思います。それでも、現実には、このコーナーでも、お分かりのように、なかなかです。

この現実を踏まえて、さて、あなたの学びに対する姿勢はということでしょう。

しかし、だからといって、あなたは、あなたの学びを捨てることはできません。あなたが、そこに、今、肉体を持つている以上、そして、この学びを肉で知った以上、あなたは、この学びをしていかなければならないのです。

なぜならば、あなたも、自分を変えるために、自分に本当のことを伝えたいために、今世、生まれてきたからです。そして、学びに繋がっているのです。そのところを、もう一度、自分に問い直していただく。本当に自分が生まれ変わりたいならば、真剣に自分を見つめていくことができるはずだと思います。

異語。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中を覗くことを、私はしておりません。表面だけをなぞった反省と瞑想です。母親に使った心も、自分では見えているつもりですが、なかなかお母さん、ありがとうと言

えるほど、深くは見ておりません。肉の母に対する思い、色々出てきます。もちろん、その中で、お母さんありがとうという思いも出てきます。だけど、私は、心の底の、底の、底のほうから、生まれてきてよかった、お母さん、ありがとう、そんな自分とまだ出会っておりません。すべては、他力のエネルギーに自分を任せてきたからです。他力のエネルギーの部厚さを感じているものの、そのすごさを、まだまだ自分で掘り下げていないことを感じます。

田池留吉を見ることができません。田池留吉は、真っ直ぐ私を見てくれています。だけど、私は、田池留吉を見ることができない。これが私の現状です。

こうやって語れることを、今、ふっと、嬉しいなあと思います。こんなにしてまで、私は、私を語りたかったんだ、そんな私を、私が押さえ込んできた、中に、深く、押し込めてきた、今、私は、それを感じ、少し、自分にすまないという思いを感じます。

田池留吉、自分で心を見ていく以外にないことを、今、確認しております。

あなたの意識です 第1巻

2010年8月30日 第1版第1刷発行

編集 / 発行 U T A 会

印刷 / 製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

© 2010 Printed in Japan